

基本情報

科目名	解剖生理学
時間割コード	0126200301
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	水 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	二科 安三
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名	
二科 安三	

詳細情報

授業の目的・到達目標	人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となる臓器は消化器系、血液および循環器系、呼吸器系、泌尿器系であり、その周辺（たとえば神経系等）にも注意を払いつつ勉強する。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。
履修上の注意事項	教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。（毎講義2時間ずつ）
評価方法	期末試験(100%)で判定する。 質問のあった内容については講義内で解説し、フィードバックを行う。
テキスト	解剖生理学（人体の構造と機能[1]）、坂井建雄、岡田隆夫 医学書院
参考文献	なし。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。（毎講義2時間ずつ）	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	はじめに 解剖学・生理学		
2	栄養の消化と吸収 1 口・咽頭・食道・胃の構造と機能		
3	栄養の消化と吸収 2 小腸・大腸の構造と機能		
4	栄養の消化と吸収 3 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能		
5	呼吸と血液の働き 1 呼吸器の構造と呼吸運動呼吸と血液の働き		
6	呼吸と血液の働き 2 ガス交換とガスの運搬		
7	呼吸と血液の働き 3 呼吸運動の調節		
8	呼吸と血液の働き 4 血液の組成と機能		
9	血液の循環とその調節 1 心臓の構造、心臓の興奮とその伝播		
10	血液の循環とその調節 2 心臓の収縮、心周期血液の循環と調節		
11	血液の循環とその調節 3 血圧・血流量の調節		
12	血液の循環とその調節 4 微小循環、リンパの循環		
13	体液の調節と尿の生成 1 腎臓の構造、糸球体・尿細管・傍糸球体装置		
14	体液の調節と尿の生成 2 糸球体濾過、クリアランスと、排尿の機序		
15	体液の調節と尿の生成 3 体液の調節		

基本情報

科目名	解剖生理学
時間割コード	0126200401
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	二科 安三
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名
二科 安三

詳細情報

授業の目的・到達目標	人体各部の構造と機能を勉強する。本講義で中心となるのは自律神経系、内分泌系、骨と筋肉、生殖器官系、生体防御免疫系である。適切な教科書を指定するので、その7割程度は理解して他人に解説できるようになること。
履修上の注意事項	教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)
評価方法	期末試験(100%)で判定する。 質問のあった内容については講義内で解説し、フィードバックを行う。
テキスト	解剖生理学 と同じ教科書を使用する。 解剖生理学 人体の構造と機能 1、坂井建雄、岡田隆夫、医学書院
参考文献	なし。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。(毎講義2時間ずつ)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	神経系の構造と機能 神経系の構造、興奮の伝導と伝達		
2	自律神経による調節		
3	内分泌による調節 1 ホルモンの構造、視床下部、下垂体		
4	内分泌による調節 2 甲状腺、膵臓、副腎、甲状腺・副甲状腺		
5	内分泌による調節 3 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節		
6	身体の支持と運動 1 骨と筋の構造		
7	身体の支持と運動 2 体幹、上肢、下肢、頭頸部の骨格と筋		
8	身体の支持と運動 3 筋の収縮		
9	情報の受容と処理 1 中枢神経の構造と機能		
10	情報の受容と処理 2 末梢神経の構造と機能		
11	情報の受容と処理 3 脳の高次機能、運動機能、感覚機能		
12	情報の受容と処理 4 特殊感覚の構造と機能		
13	身体機能の防御と適応 1 皮膚の構造と機能、生体の防御機構		
14	身体機能の防御と適応 2 体温とその調節		

授業計画

教科書に準拠して講義を進めるので、授業前・後に教科書をよく読んで予習と復習をして下さい。（毎講義2時間ずつ）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	生殖・発生と老化のしくみ		

基本情報

科目名	生化学
時間割コード	0126200501
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	月 5
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	村上 香
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名	
村上 香	

詳細情報

授業の目的・到達目標	生化学は諸々の生命現象を化学的に解明する学問であり、薬理学や栄養学と密接に関連している。本科目では、人体を構成する物質および生命現象の化学的基盤について学ぶ。基礎医学と医療とのつながりを関連付けることができるようになる。
履修上の注意事項	ライフサイエンス が基礎となるため同時に履修することが望ましい。また、高校の生物と化学の教科書や図説等で復習（講義の予習）することで、理解しやすくなる。ただ暗記するのではなく、考えて理解すること。質問等、授業への積極的な参加を期待する。
評価方法	毎回の小テスト50%、単位習得試験50% 正解とフィードバックコメントを送信する。
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学（医学書院）
参考文献	マクマリー-生物有機化学生化学編（原著8版）（丸善出版）
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画	
事前学習：教科書を読んで、意味の分からない単語を調べて自分なりに理解しておく。 ライフサイエンス の内容や高校の生物・化学の教科書・図説等で該当箇所を確認して理解を深める。	
講義：小テストによる振り返りと理解度の確認。 アクティブラーニング手法としては質問法を行うので、積極的に参加する。	
事後学習：小テストに備えて講義の振り返りを行う。 第2回目講義からは受験した小テストのフィードバックコメントを参考に振り返りを行う。	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	人体の構成物質	事前学習：p1-20（授業計画参照）解剖生理学の教科書等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
2	炭水化物の構造	事前学習：p50-66（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
3	炭水化物の機能	事前学習：p50-72（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
4	脂質の構造	事前学習：p98-110（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
5	脂質の機能	事前学習：p98-110（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	

授業計画

事前学習：教科書を読んで、意味の分からない単語を調べて自分なりに理解しておく。
 ライフサイエンス の内容や高校の生物・化学の教科書・図説等で該当箇所を確認して理解を深める。
 講義：小テストによる振り返りと理解度の確認。
 アクティブラーニング手法としては質問法を行うので、積極的に参加する。
 事後学習：小テストに備えて講義の振り返りを行う。
 第2回目講義からは受験した小テストのフィードバックコメントを参考に振り返りを行う。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
6	タンパク質の構造	事前学習：p130-135（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
7	タンパク質の機能	事前学習：p130-140（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
8	酵素	事前学習：p27-39（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
9	代謝とエネルギー産生	事前学習：p22-27（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
10	糖質の代謝（解糖）	事前学習：p68-77（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
11	糖質の代謝（クエン酸回路）	事前学習：p78-82（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
12	糖質の代謝（電子伝達系・酸化的リン酸化）	事前学習：p82-86（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
13	糖質の代謝（糖新生）	事前学習：p86-94（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
14	ホルモン	事前学習：p261-268（授業計画参照）高校の生物・化学の教科書・図説等で関連事項を確認する。 事後学習：授業計画参照	
15	まとめ（小テストの振り返り）	これまでの内容を授業ノート、プリントとテキストでしっかりと復習しておくこと。	

基本情報

科目名	感染症学
時間割コード	0126200701
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名
三森 龍之、徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、科学的根拠に基づく看護実践に必要な感染症学の知識について学ぶ。具体的には、ヒトと共生する常在菌叢の働き、ヒトの健康を害する病原微生物・寄生虫の性質や感染機構を理解し、さらに代表的な感染症について、その感染経路、症状、予防・治療法に関する基礎知識を修得する。また、生体防御機構、各種感染症に有効な化学療法薬・消毒薬の病原体に対する作用とヒトへの影響について理解を深めるとともに、耐性菌、新興感染症・再興感染症の出現、日和見感染症の増加等の医療分野における重要な課題について説明できるようになる。さらに、がん治療に用いる化学療法薬の種類と作用機序についても概説できるようになる。
履修上の注意事項	1) 毎回の準備学習として、教科書を熟読する。(約2時間) 『わかる!身につく!病原体・感染・免疫』(主に第1-6回に使用)、 『コメディカルのための薬理学』-第1章,12章,13章-(第7-15回に使用) 2) 授業には指定教科書、ノート、プリントを持参する。講義内容を書留め、その日の内に復習する(約2時間)。 3) 講義プリントはファイルし、専門用語を正確に覚え、その概念を正しく理解する。 4) 教科書・参考書・講義プリント等について理解できない箇所は、教員に質問する。
評価方法	1) 「授業の目的・到達目標」に示した内容の達成度を評価するため、学期末に筆記試験を行う。 配点: 第1~6回の講義 40%、第7~15回 60% 2) 小テスト結果のフィードバックとして、授業内でポイントの解説を行う。
テキスト	1) 『わかる!身につく!病原体・感染・免疫 第3版』 藤本 編, 南山堂, 2017年 2) 教員作成プリント 3) 『コメディカルのための薬理学 第3版』 渡邊 他編, 朝倉書店, 2018年(2学期の薬理学でも使用する)
参考文献	1) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進4 微生物学(第14版)』 南嶋 他著, 医学書院, 2022年 2) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学(第15版)』 吉岡 他著, 医学書院, 2022年 3) 『コンパクト微生物学 改訂第5版』 小熊 他監修, 南江堂, 2021年 4) 『わかりやすい薬理学 第4版』 安原 他編, ヌーヴェルヒロカワ, 2020年 5) 『シンプル薬理学 改訂第6版』 野村 他編, 南江堂, 2020年 6) 『微生物学・感染看護学 -微生物から感染防止を考える- 第2版』 岡田 他編, 医歯薬出版, 2021年
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	徳富: 管理薬剤師として調剤薬局勤務経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	感染症学概論、常在菌叢とその働き(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
2	病原微生物の分類と特性(構造、性質、病原性、感染機構)(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
3	細菌と感染(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
4	真菌と感染(三森)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	ウイルスと感染（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
6	寄生虫・原虫と感染（三森）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
7	感染症に対する薬物療法（化学療法薬概論）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
8	薬物動態（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
9	感染に対する生体防御機構（免疫系）、予防接種用薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
10	抗病原微生物薬の作用機序（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
11	抗菌薬（抗生物質）（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
12	抗菌薬（合成抗菌薬）、抗結核薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
13	抗真菌薬、抗原虫薬、抗寄生虫薬、抗ウイルス薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
14	消毒薬・殺菌薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
15	抗がん薬（徳富）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	0126300101
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	金 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)

担当教員情報

教員名
徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	病態生理学は、疾病を正常機能の破綻や調節機能の異常の観点から原因解明する学問であり、病理学は、疾病の原因、機序などを明らかにする学問である。本科目では、科学的根拠に基づく看護実践に必要な専門知識を学ぶ。具体的には、解剖生理学で学んだ人体の正常な仕組みに関する知識に基づき、疾病の成り立ちを基本的な機序に沿って整理する。さらに、その結果引き起こされる組織や臓器の変化に関する正しい知識を身につけ、各種疾患における病態生理や臨床症状を理解するための基礎的事項を総論的に学ぶ。専門用語を正しく理解し、臓器ごとの各種疾患の成り立ちを理解するための基礎知識を身につける。正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し説明できること、病態生理学の知識を用いて医療分野のニーズに対応できるようになることを目標とする。
履修上の注意事項	1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること(2時間程度)。 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること(2時間程度)。 3) 講義プリントはファイルし、毎回、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくること。 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。
評価方法	1) 筆記試験(100%)で評価する。 2) 「正常な状態から病態への移行と回復過程に関する基本的知識を正確に理解し、説明できる」を評価基準とする。 2) 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。
テキスト	1) 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 「病理学」(第6版) 大橋健一ほか著、医学書院、2021年 2) 教員作成プリント
参考文献	1) なるほどなっとく! 病理学 病態形成の基本的な仕組み 改訂2版、小林 著、南山堂、2019年 2) シンプル病理学 改訂第8版、笹野 他編、南江堂、2020年 3) わかりやすい病理学 改訂第7版、恒吉 監修、南江堂、2021年
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	病理学で学ぶこと、病気の原因(内因、外因)	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
2	細胞・組織の損傷と修復、炎症	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
3	免疫・アレルギー、移植と再生医療	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
4	感染症	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
5	循環障害 : 局所性	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
6	循環障害 : 全身性	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	
7	代謝障害 : 脂質代謝障害、タンパク質代謝障害	教科書の予習・講義の復習(それぞれ2時間程度)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
8	代謝障害 : 糖代謝障害、そのほかの代謝障害	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
9	老化と死	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
10	先天異常	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
11	遺伝子の異常と疾患	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
12	腫瘍 : 腫瘍の定義と分類、悪性腫瘍の広がりと影響	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
13	腫瘍 : 腫瘍の発生病理	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
14	腫瘍 : 腫瘍の診断と治療	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
15	生活習慣と環境因子による生体の障害	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	

基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	0126300201
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	木 1
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	大河原 進
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)

担当教員情報

教員名
大河原 進

詳細情報

授業の目的・到達目標	臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学ぶ。本講義では各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を知識として身につけ、疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解し、知識として身につける。
履修上の注意事項	内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。解剖と生理については、1年次の授業の復習をしておくこと。
評価方法	授業への積極性(5%)、筆記試験(95%)で総合的に評価する。60点以上を合格とする。フィードバックとして、評価終了後に試験問題の解答例を公開する。
テキスト	「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂
参考文献	1. (系統看護学講座、専門基礎分野) 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 「病態生理学」医学書院 2. 「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	教員として大学勤務経験 医師として病院勤務経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	呼吸器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
2	呼吸器 呼吸器感染症、アレルギー、慢性閉塞性疾患、間質性肺疾患、気道系疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
3	呼吸器 腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	循環器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
5	循環器 心不全、不整脈、心筋疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
6	循環器 心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈疾患、静脈疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
7	消化管 症候、検査と治療、食道の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
8	消化管 胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
9	肝・胆・膵 症候、検査と治療、肝臓疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
10	肝・胆・膵 胆道疾患、膵臓疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
11	代謝・栄養 症候、検査と治療、糖尿病他の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
12	内分泌 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	内分泌 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎の疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
14	腎・泌尿器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
15	腎・泌尿器 腎疾患、泌尿器疾患、腎不全	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

基本情報

科目名	病態生理学
時間割コード	0126300301
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	大河原 進
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)

担当教員情報

教員名	
大河原 進	

詳細情報

授業の目的・到達目標	病態生理学 に引き続き、臨床医学の各分野全般における各種疾患について、症候・病態・診断・治療に関する基礎知識と理論を学び、各器官や臓器ごとに各疾患の特徴を理解できる。疾患が成り立つ機序としての病理学的変化が臨床的症候と密接な関係にあることを理解できる。
履修上の注意事項	内容がかなり多いので、必ず教科書を予習してくる。復習も必ず行うこと。解剖と生理については、1年次の授業の復習をしておくこと。
評価方法	授業への積極性(5%)、筆記試験(95%)で総合的に評価する。60点以上を合格とする。フィードバックとして、評価終了後に試験問題の解答例を公開する。
テキスト	「看護のための臨床病態学」編集：浅野嘉延、吉山直樹、南山堂
参考文献	「臨床病態学1、2、3」北村聖 総編集、NOUVELLE HIROKAWA
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	教員として大学勤務経験 医師として病院勤務経験

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	脳・神経 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
2	脳・神経 脳血管障害、神経変性疾患、中枢神経系の脱髄性疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
3	脳・神経 末梢神経等の疾患、筋疾患、感染症、機能的疾患、腫瘍	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	
4	血液 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと(2時間) 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
5	血液 赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
6	膠原病・アレルギー 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
7	膠原病・アレルギー 膠原病と関連疾患、アレルギー性疾患	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
8	運動器 症候、検査と治療	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
9	運動器 外傷、骨折、脱臼、捻挫	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
10	運動器 脊椎・脊髄の疾患、上肢・下肢の疾患、腫瘍、末梢神経麻痺	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
11	女性生殖器 月経困難症、子宮内膜症、腫瘍、更年期障害、不妊症	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
12	眼 症候、検査と治療、結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
13	耳鼻咽喉 症候、検査と治療、中耳炎、めまい/難聴、副鼻腔炎、腫瘍	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
14	皮膚 症候、検査と治療、皮膚炎、色素性母斑、熱傷、褥瘡	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	
15	精神 症候、検査と治療、統合失調症、うつ病、双極性障害	事前 テキスト指定範囲を事前に熟読し、わからない事項について下調べしておくこと（2時間） 事後 講義を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）	

基本情報

科目名	薬理学
時間割コード	0126200801
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	徳富 芳子
科目区分	共通専門科目 学部共通専門科目

担当教員情報

教員名
徳富 芳子

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、科学的根拠に基づく看護実践に必要な薬物療法の専門知識について学ぶ。 薬物とは、恒常性（ホメオスタシス）の破綻による生体機能の異常（病態）を正常範囲に戻そうとする目的で、疾病の治療・予防・診断に用いられる化学物質である。日進月歩の薬物療法が、医療・保健・福祉の現場で適正かつ有効に行われているか判断できるよう、各種薬物を系統的に把握し理解する。基本的な薬理学の知識に基づく論理的思考力を駆使して、副作用の発現防止に寄与するための応用力を身につける。薬物療法の専門知識を用いて論理的思考を展開し、医療分野のニーズに対応できるようになることを目標とする。
履修上の注意事項	1) 各回のテキスト該当箇所を予め熟読すること（2時間程度）。 2) 講義中に要点をノートに書き、その日の内に内容をしっかりと復習すること（2時間程度）。 3) 講義プリントはファイルし、薬理学授業時に、教科書、ノートと一緒に必ず持ってくる。こと。 4) 専門用語は正確に覚え、その概念を正しく理解すること。理解できない内容は講義の前後に質問すること。
評価方法	1) 学期末の本試験（100%：筆記試験）で評価する。 2) 「薬物療法の専門知識を用い、論理的思考を展開できる」を評価基準とする。 3) 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。
テキスト	1) 『コメディカルのための薬理学 第3版』渡邊 他編，朝倉書店，2018年（2学期の感染症学でも使用） 2) 教員作成プリント
参考文献	1) 『系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学(第15版)』吉岡 他著，医学書院，2022年 2) 『わかりやすい薬理学 第4版』安原 他編，ヌーヴェルヒロカワ，2020年 3) 『シンプル薬理学 改訂第6版』野村 他編，南江堂，2020年 4) 『看護学テキストNiCE 薬理学』荻田 他編，南江堂，2020年 5) 『今日の治療薬2023』浦部他編，南江堂，2023年 6) 『はじめる！つかえる！看護のための薬理学』時政 著，南山堂，2017年 7) 『イラストで理解するかみくだき薬理学 改訂2版』町谷 著，南江堂，2020年
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	徳富：管理薬剤師として調剤薬局勤務経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	薬理学総論（薬物療法、関係法規、剤形、薬物の作用点）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
2	薬理学総論（薬物相互作用）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
3	薬理学総論（薬物動態）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
4	薬理学総論（年齢・臓器障害等による薬物動態変化）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
5	末梢神経系作用薬（交感神経系作用薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	
6	末梢神経系作用薬（副交感神経系作用薬）	教科書の予習・講義の復習（それぞれ2時間程度）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
7	末梢神経系作用薬 (筋弛緩薬、局所麻酔薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
8	循環器系作用薬 (抗不整脈薬、心不全治療薬、狭心症治療薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
9	循環器系作用薬 (高血圧治療薬、末梢血管作用薬、利尿薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
10	中枢神経系作用薬 (全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ・抗躁鬱薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
11	中枢神経系作用薬 (抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、麻薬性鎮痛薬、中枢興奮薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
12	血液疾患に対する薬物、炎症・免疫疾患に対する薬物 (抗炎症・抗アレルギー薬、免疫抑制薬、免疫増強薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
13	呼吸器系疾患に対する薬物 (気管支喘息治療薬、COPD治療薬、鎮咳・去痰薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
14	消化器系疾患に対する薬物 (消化性潰瘍治療薬, 他), 泌尿器系疾患に対する薬物 (排尿障害治療薬)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	
15	代謝・内分泌系疾患に対する薬物 (糖尿病治療薬、痛風治療薬、他)	教科書の予習・講義の復習 (それぞれ2時間程度)	

基本情報

科目名	老年看護学概論
時間割コード	0126311501
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	月 2
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	生野 繁子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>ディプロマ・ポリシーとの関連 1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの中で高齢者をとらえ、高齢者の特徴とその健康生活について理解できる。 2. 保健医療福祉制度の変化と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。 3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。 4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。 5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回講義時に老年看護学全体の構造を説明するので、学修計画を立てて置くこと。 ・ 具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。 ・ 家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読(約90分)しておくこと。 ・ シラバス内容に関するテキスト部分を事前学習(約90分)し、授業に参加すること。 ・ 生野担当時に数回ミニテスト(評価には加味しない)を実施する。必ず復習(約90分)すること。
評価方法	・ 期末定期試験(筆記)100%で評価する。
テキスト	「高齢者の健康と障害」老年看護学 第7版 堀内ふき編メディカ出版
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最新版 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メヂカルフレンド社 2. 最新版 新体系看護学全書「老年看護技術」メヂカルフレンド社 3. 最新版 系統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院 4. 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	生野 看護師として病院勤務経験 山本 看護師・保健師として病院勤務経験 北原 看護師として病院勤務経験

授業計画

授業計画
<p>看護学科の老年看護学領域担当者3名が担当。7回半が講義、8回後半が単位修得試験。感染状況等で回の内容を入れ替えることがあります。</p> <p>ディプロマ・ポリシー1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4・5の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。</p> <p>事前事後学修として各回のキーワードに該当するテキスト部分を読んでおき、講義後は復習すること。(事前90分事後90分程度必要)</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

看護学科の老年看護学領域担当者3名が担当。7回半が講義、8回後半が単位修得試験。感染状況等で回の内容を入れ替えることがあります。

ディプロマ・ポリシー1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4・5の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。

事前事後学修として各回のキーワードに該当するテキスト部分を読んでおき、講義後は復習すること。(事前90分事後90分程度必要)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス・高齢者とは・高齢者の特徴と理解・高齢者の生活と家族(生野)	ライフサイクル・加齢・老化・老年期の発達課題・サクセスフルエイジング・ノーマライゼーション・スピリチュアリティ・家族機能の変化・介護者の健康・介護力評価・高齢者の家族への支援	左のキーワードを参考に事前にテキストを読んでおき、講義後は復習すること
2	高齢者にとっての健康・機能と評価・QOL(山本)	高齢者総合機能評価・ADL・IADL・障害と認知症の高齢者の日常生活自立度・要介護・要支援の認定と区分・リロケーション	同上
3	加齢に伴う身体機能の変化(生野)	高齢者の健康と疾病の特徴・恒常性(防衛力、予備力、適応力、回復力)の維持と各器官の機能の低下	同上
4	認知・心理・社会的変化と健康への影響・高齢者における性(生野)	知能や能力の変化・役割と社会活動の変化・余暇活動と生きがい・住宅環境・就労等の状況・高齢者の性機能の特徴	同上
5	老年看護の倫理・自己決定・虐待と身体拘束・成年後見制度(北原)	スティグマ・エイジズム・高齢者虐待・アドボカシー・身体拘束・高齢者の医療の確保に関する法律・成年後見制度・日常生活自立支援事業	同上
6	介護保険施設入所及びサービス利用高齢者の暮らしと看護(生野)	介護保険制度全般・地域包括ケアシステム・入所・地域密着型サービス・在宅サービスの種類と特徴・福祉介護用品の活用	同上
7	入院・長期入院・入所の高齢者の暮らしと看護・多職種連携チームアプローチ(山本)	医療施設の種類と特徴・入院・長期入院・入所高齢者のアセスメントと生活上の課題と援助・介護職員の専門性と役割の共有	同上
8	老年看護学概論のまとめ(生野)(45分)・評価テスト(生野・山本・北原)(45分)		1~7回の資料を整理し復習してまとめに望むこと。

基本情報

科目名	基礎看護学（生活援助技術）
時間割コード	0126310202
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	月 1, 月 2, 月 3, 金 1, 金 2
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護技術の対象となる生活者の理解を通して、看護実践に必要な基礎的援助技術を学び、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につける必要性を知る。
履修上の注意事項	講義、グループワーク、課題学習および発表、技術演習という学習方法によって学習を深める。第1回目のオリエンテーション時に「学習の進め方」で授業前・後の学習について説明をする。到達目標と自己評価を設定しているため、学習前後で確認する。また、事前・事後学習の課題はノート作成をすることで実施する。事前・事後学習およびノート作成にかかる時間は各2時間である。
評価方法	定期試験（筆記）：60%、学習態度・状況（小テスト、レポート提出、実技試験）：40% フィードバックとして事前・事後課題および作成したノートは、演習前に返却し、コメント内容については演習時あるいは演習後に確認する。
テキスト	『基礎看護技術』有田清子他（医学書院）『看護がみえる1 基礎看護技術』（メディックメディア）『看護がみえる2 臨床看護技術』（メディックメディア）『ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める』三上れつ・小松万喜子（南江堂）『改訂版 パワーアップ問題演習基礎看護学 第2版』山口瑞穂子（サイオ出版）
参考文献	『イラストでわかる基礎看護技術』、『NEW なぜ？がわかる・看護技術LESSON』、『完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド』『考える基礎看護技術』、『ビジュアル基礎看護技術ガイド』、『基礎看護学テキスト』、『看護技術プラクティス』、『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』、『実践に役立つ看護過程と看護診断』、『看護学生のためのナーシング・ワークアップ』、『看護がみえる3』、『看護がみえる4』
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	上妻・古堅・古江・赤峰：看護師として病院勤務経験、柴田：養護教諭として小中高の実務経験

授業計画

授業計画
看護技術は講義で学習内容を確認した後、演習で実際に経験をすることで理解を深める。演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、環境調整技術（柴田）	オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡する。	
2	コミュニケーション（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
3	環境調整技術（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
4	活動と休息援助技術（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
5	排泄援助技術（古江）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
6	食事援助技術（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

授業計画

看護技術は講義で学習内容を確認した後、演習で実際に経験をすることで理解を深める。演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	清潔援助技術（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
8	感染予防の技術（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
9	衣生活援助技術（古江）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
10	ヘルスアセスメント（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
11	バイタルサイン（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
12	安全確保の技術（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
13	苦痛の緩和・安楽確保の技術（上妻）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
14	看護過程展開の技術（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
15	看護記録、学習のまとめ（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
16	コミュニケーション（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
17	手洗い、ベッドメイキング（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
18	体位変換、移送（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
19	排泄介助（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
20	食事介助（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
21	ベッドメイキング、記録の確認（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

授業計画

看護技術は講義で学習内容を確認した後、演習で実際に経験をすることで理解を深める。演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。オリエンテーションで事前学習・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
22	陰部ケア・口腔ケア（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
23	清拭（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
24	無菌操作・滅菌物の取り扱い（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
25	臥床患者のリネン交換（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
26	バイタルサイン（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
27	電法、記録の確認（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
28	実技テスト（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
29	洗髪（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	
30	観察と報告：バイタルサイン（基礎担当者）	演習の実施においては、事前に準備について確認し授業に出席すること。事前学習はキャンパススクエアで連絡し、事後学習については授業内あるいはキャンパススクエアで確認する。	

基本情報

科目名	基礎看護学（診療補助技術）
時間割コード	0126310302
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	上妻 尚子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元

詳細情報

授業の目的・到達目標	看護の対象者に、安全・安楽な看護援助を実践するための日常生活援助技術および診療の補助技術に関する基本的な知識および技術を理解できる。本授業の目的は、様々な健康段階にある人と家族に対して個性のある援助を実践するための基盤を形成することができることである。
履修上の注意事項	演習時は、実習要項に準じて身だしなみを整えて参加してください。身だしなみが整っていない場合は、演習に参加できないことがあります。演習は、2~3グループに分かれて実施します。演習の際には、事前に提示される症例に対する看護技術援助方法を計画します。演習前に実施方法をグループメンバーでディスカッションし、実施後にはデブリーフィングを行い、アクティブラーニングを取り入れた学習を展開していきます。詳細は別途説明します。 毎回の講義および演習の際には、別途配布する「看護技術学習ガイド」に、看護技術の学習状況を記録し、自身の看護技術の習得状況を確認してください。
評価方法	定期試験：60%、実技試験・小テスト・学習態度(演習記録の提出を含む)：40% フィードバックとして、提出された演習時の記録に対して、様式や内容について随時指導する。講義内で小テストを実施する。小テストは終了後に解説する。
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護技術」有田清子・任和子他（医学書院）2022年 「看護がみえる」藤本真記子・近藤一郎他（Medic Media）2021年 「パワーアップ問題集 基礎看護学」山口瑞穂子（サイオ出版）2021年 「ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第2版」三上れつ・小松万喜子他（南江堂）2021年
参考文献	「写真でわかる基礎看護技術アドバンス」吉田みつ子・本庄恵子 インターメディカ 2021年 「写真でわかる臨床看護技術アドバンス」本庄恵子・吉田みつ子 インターメディカ 2021年 「完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド」坂本すが 照林社 2016年 「看護技術プラクティス」竹尾恵子 Gakken 2014年 「基礎・臨床看護技術」任和子他 医学書院 2019年 他
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	上妻尚子、古堅裕章、古江佳織、赤峰隆元：看護師として病院勤務経験 柴田恵子：養護教諭として学校勤務経験。

授業計画

授業計画
各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	講義：症状・生体機能管理技術-検体検査-（柴田）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、検体検査に関する技術についてノートに整理する（2時間）。	
2	講義：創傷管理技術（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、創傷管理技術についてノートに整理する（2時間）。	

授業計画

各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	講義：食事の援助技術（経管栄養法・中心静脈栄養）（古堅）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、食事の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
4	講義：排泄の援助技術（浣腸・導尿・ストーマケア）（古江）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、排泄の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
5	講義：与薬の援助技術の基礎（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、与薬の援助技術の基本知識についてノートに整理する（2時間）。	
6	講義：与薬の援助技術の実際 経口与薬・経皮与薬・直腸内与薬・点眼・点鼻（赤峰）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、与薬の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
7	講義：与薬の援助技術の実際 注射・輸血（赤峰）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、与薬の援助技術についてノートに整理する（2時間）。	
8	講義：呼吸・循環を整える技術（酸素療法・吸入）（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、酸素療法や吸入の技術についてノートに整理する（2時間）。	
9	講義：呼吸・循環を整える技術（口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引、排痰ケア）（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、吸引や排痰ケアの技術についてノートに整理する（2時間）。	
10	小テスト 講義：呼吸・循環を整える技術（末梢循環促進ケア・人工呼吸療法）（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、呼吸循環を整える技術についてノートに整理する（2時間）。	
11	講義：症状・生体情報モニタリングの技術（古江）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、症状・生体情報モニタリング技術についてノートに整理する（2時間）。	
12	講義：診察・検査・処置の介助技術（古堅）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、診察・検査・処置の介助技術についてノートに整理する（2時間）。	

授業計画

各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	講義：救命救急処置術（上妻）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、救命救急処置術についてノートに整理する（2時間）。	
14	講義：死の看取りの技術（柴田）	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、死の見取りの技術についてノートに整理する（2時間）。	
15	講義：学習支援(柴田)	事前：テキストの該当範囲を事前に熟読し、分からない事項を下調べする（2時間） 事後：講義内容及び配布資料を基に、看護師が行う患者への学習支援についてノートに整理する（2時間）。	
16	演習：褥瘡管理技術（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
17	演習：採血（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
18	演習：経管栄養（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
19	演習：看護記録 グループワーク（担当者全員）	事前：これまでの演習に関する記録を整理する（2時間） 事後：グループワークでの学びを基に、自分のこれまでの記録を振り返り、今後の記録の書き方について具体的な方法をノートにまとめる（2時間）	
20	演習：皮下注射（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
21	演習：洗腸・摘便（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
22	演習：モニタリング（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
23	演習：酸素療法（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
24	演習：口腔内・気管内吸引（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
25	演習：導尿（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	

授業計画

各回の授業内容は、下記に示すとおりである。毎回、授業計画を確認し、事前事後学習に取り組むこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
26	演習：フィジカルイグザミネーション（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
27	演習：フィジカルアセスメント（担当者全員）	事前：提示症例に対する援助計画と学習目標を立案する（2時間） 事後：実施した演習内容を振り返り、実施内容とその評価を記録する（2時間）	
28	実技試験（担当者全員）	事前：1学期の学習内容およびフィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメントの演習での学びを基に実技試験の実施方法を考える（2時間） 事後：自分が実施した実技試験内容を振り返り、技術の習得に向けての今後の課題を明確にする（2時間）	
29	演習：心肺蘇生法（担当者全員）	事前：心肺蘇生法の方法を学習する。事後：実施した心肺蘇生法についてデータをもとに振り返り、一般市民への普及啓発に活用する。	
30	演習：カルテの見方と情報収集（担当者全員）	事前：提示症例に対する情報収集を行う。事後：事前に行った情報収集を振り返り不足分を捕捉し、情報収集の意義を考える。	

基本情報

科目名	臨床看護学総論
時間割コード	0126310601
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名	
柴田 恵子、古堅 裕章、古江 佳織、上妻 尚子、赤峰 隆元	

詳細情報

授業の目的・到達目標	本科目では、看護の対象者の状況(ライフサイクル、場、健康状態、症状、治療)に応じた理解とそれに応じた看護について学ぶことを目的とする。 1.健康障害をもつ人および健康上のニーズをもつ人の看護について理解できる。2.健康障害の「経過」に焦点をあて、患者の理解と必要な看護を学習できる。3.主要な症状の治療・処置についての理解を深め、必要な看護を学習できる。4.臨床看護についての学びを総括し、保健・医療・福祉専門職として相応しい高い知識と優れた技術を身につけるための自己の課題を明らかにすることができる。
履修上の注意事項	第1回目のオリエンテーション時に授業計画を発表するので、必要な学習は事前に各自が行なってくる。授業は事前課題で取り組んだ学習内容をもとにグループワーク、発表を行うことで確認する(アクティブラーニング)。授業での学習をもとに事後課題ではレポートを作成することでまとめる。小テストはそれまでの学習の復習を兼ねた事後学習である。課題学習、レポート作成に要する事前学習と事後学習はそれぞれ2時間である。
評価方法	筆記試験:60%、学習態度・状況(小テスト、レポート提出):40%。 フィードバックとして小テストは問題を確認することで学習に役立て、レポートは返却する。
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論、香春知永他、2022、医学書院
参考文献	随時、紹介する。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	上妻・古堅・古江・赤峰:病院、施設等での看護師の実務経験、柴田:学校での養護教諭の実務経験を有す。

授業計画

授業計画	
臨床看護について学ぶことで、看護の必要性の理解を深める。また、主要な症状の処置・治療についての学びを、看護過程の展開において活用する。オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	オリエンテーション、健康上のニーズをもつ生活者と家族(柴田)	オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで確認する。	
2	主要症状を示す患者の看護:痛み、呼吸障害(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
3	主要症状を示す患者の看護:意識障害、グループワーク(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
4	主要症状を示す患者の看護:循環障害(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
5	主要症状を示す患者の看護:消化・排泄障害(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
6	小テスト1、症状と看護について(上妻)	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	

授業計画

臨床看護について学ぶことで、看護の必要性の理解を深める。また、主要な症状の処置・治療についての学びを、看護過程の展開において活用する。オリエンテーションで事前・事後学習について説明する。事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	健康状態の経過に基づく看護（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
8	治療・処置を受けている患者の看護：創傷処置（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
9	治療・処置を受けている患者の看護：集中療法（古江）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
10	治療・処置を受けている患者の看護：輸液療法（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
11	治療・処置を受けている患者の看護：化学療法（赤峰）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
12	治療・処置を受けている患者の看護：放射線療法（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
13	治療・処置を受けている患者の看護：手術療法（古堅）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
14	事例による看護実践の展開（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	
15	まとめ：臨床看護学総論の学びの実践での活かし方（柴田）	事前学習はキャンパススクエアで確認し、事後学習は授業内あるいはキャンパススクエアで提示する。	

基本情報

科目名	小児看護学概論
時間割コード	0126311801
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	金 4
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	松岡 聖美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
松岡 聖美、鎌田 晃子、二宮 球美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>子どもを取り巻く社会環境の変化と多様化する子どもと家族の健康ニーズに対し、成長発達に応じた小児看護の基礎的能力を涵養することを目的としている。</p> <p>目標としては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健に係る法律、制度、政策を説明できる 2. 子どもの成長発達段階の特徴を説明できる 3. 小児看護で用いられる概念、理論を活用し、標準的な発達の子どもの行動を説明できる <p>以下のディプロマ・ポリシーに対応している科目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「生命・生活・人生」を共に考えることができる能力 2. 保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し、課題解決の糸口を探求できる能力
履修上の注意事項	<p>カリキュラムポリシーに則り、共通科目・共通専門科目・専門基礎分野・基礎看護学系の専門分野科目を基盤として講義を進める。</p> <p>本科目は、小児看護学実習の先修科目の一つである。小児看護学実習で理論と実践の統合をはかることを見据え、科学的根拠に基づき小児看護学を説明できるレベルに達することを期待する。</p> <p>ICT活用能力の向上のため、office365を適宜利用していく。すぐに使用できるように、自分に与えられたID等の確認をしておくこと。</p> <p>学習の達成度を学生自身で確認できるように、office365のFormsによる小テストを実施する。成績評価の対象ではないが、小テスト結果で不足していると思われる学習を各自補填し、定期テストへの準備とすること。</p>
評価方法	<p>単位取得資格:2/3以上の出席が前提</p> <p>*30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす</p> <p>*30分以内の遅刻・早退の合計3回を欠席1回とする</p> <p>1. 定期試験 80%</p> <p>2. 課題内容 20%</p> <p>定期試験では、小テスト内容だけでなく講義内容、課題内容、テキスト・副教材内容から出題する。</p> <p>課題は提出しただけでは評価対象とはせず、提出内容により評価する。</p> <p>【フィードバック】</p> <p>定期試験においては個別での質疑応答の時間設定もしくは、解答の掲示を行う。</p> <p>レポート等課題に関しては、授業の際に概要を学生全体に伝え、個別対応はオフィスアワーでの対応とする。</p>
テキスト	<p>中野綾美編．小児の発達と看護 第7版．メディカ出版．2023</p> <p>中村友彦他編．小児の疾患と看護 第3版．メディカ出版．2023</p> <p>山元恵子監修．写真でわかる小児看護技術アドバンス 第2版．インターメディカ．2022</p>
参考文献	<p>適宜紹介する書籍、文献</p> <p>講義中に配布される印刷教材、指定DVD</p>
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>科目責任者 松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する</p> <p>科目担当者 二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する</p> <p>非常勤講師 鎌田晃子 看護師として病院勤務経験を有する</p>

授業計画

授業計画

授業の目的を達成するために必要とされる知識を教授し、思考および知識の活用・応用のために必要とされる経験・課題を計画的に配置する。それ以外の事前事後学習については、下記【課題】を参照すること。

小児看護学概論としての目的だけでなく、社会人基礎力として求められる、前に踏み出す自主性・多様な人と目標に向けて協力できるチームワーク力・考え抜き課題を解決する力を涵養するため、授業内に複数のアクティブラーニングを取り入れている。また、ICT活用能力の向上のため、office365を適宜利用していく。

【課題】

課題を課されていない場合でも、最低以下の事前事後学習を行うこと。

1. 事前学習：テキスト指定ページを読む、関係する解剖生理等で不明確な者はその復習、テキスト上の動画コンテンツの視聴、講義資料を読む（90分）
2. 事後学習：事後配布資料・事後学習用コンテンツの活用、関連DVD視聴、引用文献の確認、知識の定着、関連の国家試験過去問題へのチャレンジなど（90分）

* 別途事前・事後課題及び課題レポートがCampus squareに提示されるため注意すること(計30時間程度)

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	子どもとは、子どもをとりまく社会、child and family centered care（松岡）	課題についてはCampussquareに掲示予定	ペアワーク 事後課題（～6/24）
2	子どもに関する法律・制度・保健施策（松岡）	Campussquareに補助教材配布予定	ペアワーク office365のformsを用いたテスト
3	小児看護で用いられる概念理論（松岡）	課題についてはCampussquareに掲示予定	事前学習（～6/29）を基にした反転授業
4	成長発達原則、乳児期の子どもの成長発達（松岡）	課題についてはCampussquareに掲示予定	事前学習（～7/6）を基にした反転授業
5	幼児期の子どもの成長発達（二宮）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	
6	学童期・思春期の子どもの成長発達、AYA世代の特徴（二宮）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	office365のformsを用いたテスト
7	【特別講義】小児専門看護師の病院・地域での役割（楢田）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	事後レポート課題（～8/11）
8	虐待・災害を受けた子どもとその家族への看護（二宮） 定期試験（40分）	事前事後学習については約1週間前にCampussquareに掲示予定 事後資料として補助教材配布予定	前半40分講義、その後40分を定期試験とする

基本情報

科目名	小児看護学援助論
時間割コード	0126311901
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	松岡 聖美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
松岡 聖美、牛ノ浜 奈央、二宮 球美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>1学期に履修した小児看護学概論での学びをベースに、様々な状況にある子どもとその家族に対する発達段階に応じた援助、子どもの権利を尊重した援助について理解できることを目指す。</p> <p>具体的には、以下の目標に沿って授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な状況にある子どもとその家族の特徴を記述できる 2. 子どもによくみられる疾患、治療、療養生活の特徴を記述できる 3. 様々な状況にある子どもの権利を尊重した看護について自分の言葉で記述できる 4. 子どもをケアする多職種連携について考察できる <p>以下のディプロマ・ポリシーに対応している科目である。</p> <p>2保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し、課題解決の糸口を探索できる能力 3多様な場において、様々な健康段階にある人と家族に対して個別性のある援助ができる能力 4保健医療福祉チームの一員として協働し連携できる能力</p>
履修上の注意事項	<p>1学期の小児看護学概論同様に、カリキュラムポリシーに則り、共通科目・共通専門科目・専門基礎分野・基礎看護学系の専門分野科目を基盤にし、さらに小児看護学概論で学んだ小児看護の視点で子どもとその家族への援助について学習する。</p> <p>受講者の理解を促すため、臨場感のある事例を提示し授業を展開する。漫然と講義を「聞く」のではなく、実習でどのように行動するか常に考えながら授業に「参加」することを期待する。</p> <p>学習の達成度を学生自身で確認できるように、Formsによる小テストを実施する。評価の対象ではないが、小テスト結果で不足していると思われる学習を各自補填し、定期テストへの準備とすること。</p>
評価方法	<p>単位取得資格:2/3以上の出席が前提 *30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす *30分以内の遅刻・早退の合計3回を欠席1回とする</p> <p>1. 定期試験 80% 2. 課題内容 20%</p> <p>定期試験では、小テスト内容だけでなく講義内容、課題内容、テキスト・副教材内容から出題する。 課題は提出しただけでは評価対象とはせず、提出内容により評価する。</p> <p>【フィードバック】 定期試験においては個別での質疑応答の時間設定もしくは、解答の掲示を行う。 レポート等課題に関しては、授業の際に概要を学生全体に伝え、個別対応はオフィスアワーでの対応とする。</p>
テキスト	<p>中野綾美編．小児の発達と看護 第7版．メディカ出版．2023 中村友彦他編．小児の疾患と看護 第3版．メディカ出版．2023 山元恵子監修．写真でわかる小児看護技術アドバンス 第2版．インターメディカ．2022</p>
参考文献	<p>荏津智子編（2021）．発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 第2版．東京：医師薬出版． 浅野嘉延他編（2020）．看護のための臨床病態学．東京：南山堂 監修鴨下重彦（2002）．こどもの病気の地図帳東京：．講談社 講義中に配布される印刷教材、指定DVD 中村伸枝（2016）．小児看護学．東京：PILAR press． 倉田慶子編（2016）．ケアの基本がわかる 重症心身障害児の看護．東京：へるす出版．</p>
実務経験のある教員による授業	有

詳細情報

実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	科目責任者	松岡聖美	看護師として病院勤務経験を有する
	科目担当者	二宮球美	看護師として病院勤務経験を有する
	非常勤講師	牛ノ浜奈央	看護師として病院勤務経験を有する

授業計画

授業計画	
<p>授業の目的を達成するために必要とされる知識を教授し、思考および知識の活用・応用のために必要とされる経験・課題を計画的に配置する。それ以外の事前事後学習については、下記【課題】を参照すること。 資料掲示する”オリエンテーション資料”に課題等の詳細を説明する。熟読して講義に臨むこと。</p> <p>【課題】 課題を課されていない場合でも、最低以下の事前事後学習を行うこと。 1.事前学習：備考欄に記載の疾患に関するテキストページを読む、関係する解剖生理等で不明確な者はその復習、テキスト上の動画コンテンツの視聴、講義資料を読むなど(90分) 2.事後学習：事後配布資料・事後学習用コンテンツの活用、関連DVD視聴、引用文献の確認、知識の定着、関連の国家試験過去問題へのチャレンジなど(90分) *別途事前・事後課題及び課題レポートがCampus squareに提示されるため注意すること(計30時間程度)</p>	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響(松岡)		プレパレーション・ディストラクション
2	子どもの事故(松岡)	事後レポート	グループワーク 不慮の事故・誤飲・誤嚥 ・熱傷・溺水・鼻出血
3	症状別看護(けいれん・ショック・疼痛・皮膚症状)(松岡)	formsテスト	熱性けいれん・感染症・腸重積
4	症状別看護(発熱・咳嗽・呼吸困難)(松岡)		川崎病・喘息・RS・ヒトメタウイルス
5	症状別看護(嘔吐・下痢・脱水・浮腫)(松岡)		幽門狭窄症・ロタウイルス・アレルギー性紫斑病
6	検査を受ける子どもとその家族への看護(松岡)	formsテスト	採尿(膀胱尿管逆流症) ・腰椎穿刺(髄膜炎) ・骨髄穿刺(急性リンパ性白血病)・X-P・脳波・MRI・CT・各種エコー
7	周手術期の子どもとその家族への看護(二宮)		口蓋裂・ヒルシュスプルング病・鎖肛・ファロー四徴症
8	救急処置の必要な子どもとその家族への看護(二宮)		溺水・熱傷・外傷・虐待・災害
9	慢性疾患を持つ子どもとその家族への看護(二宮)	formsテスト	1型糖尿病・ネフローゼ・SLE
10	先天的な健康問題をもつ子どもとその家族への看護(二宮)		21トリソミー(ダウン症候群・13トリソミー・18トリソミー・クラインフェルター症候群・筋ジストロフィー・先天性胆道閉鎖症・脳性まひ・発達障害
11	障害のある子どもと家族の看護(二宮)		同上
12	悪性新生物のある子どもとその家族への看護(二宮)	formsテスト	固形腫瘍・血液腫瘍・緩和ケア・終末期ケア
13	【特別講義】専門看護師による悪性新生物・終末期にある子どもとその家族への看護(牛之浜)	事後レポート	上記に加えて看護倫理
14	体動制限のある子どもへの看護が言える(松岡)		骨折・先天性股関節脱臼・若年性特発性関節炎
15	病気を抱えながら地域に暮らす子どもとその家族への看護(二宮)	formsテスト	喘息・アトピー性皮膚炎・てんかん・医療的ケア児

基本情報

科目名	成人看護学援助論（急性期療養支援）
時間割コード	0126311201
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	杉野 由起子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、未定、森 雄太、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期、疾患の急性発症・急性増悪など、生体侵襲を受けた対象を全人的に理解し、回復を促進する看護を理解する 2. 生活を再構築する対象者と家族の心理・社会的側面を理解し、支援に関わる多職種や看護師の役割を理解する <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体侵襲を受けた対象の病状と治療・回復過程における看護師の役割を説明できる 2. 疾患の急性発症や増悪にある対象への療養支援と患者・家族教育を説明できる 3. 周術期の看護過程と生体侵襲を受けた対象の回復過程を説明できる 4. クリティカルケア看護の対象となる対象の特性と家族を含めた療養支援を説明できる
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない内容や専門用語は、1年次に履修した解剖生理学や基礎看護学等の知識を復習または確認する（事前学修120分） 2. 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する（事後学修120分） 3. この授業は3年次の成人看護学実習（急性期療養支援）および4年次看護総合実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験(100%)で評価する</p> <p>授業後のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次の講義のなかで解説する</p>
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座専門分野 成人看護学 2023年度巻【2】～【11】第15版 医学書院 2. 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護 2023改訂第4版 南江堂 3. 成人看護学 急性期看護II 救急看護・クリティカルケア 2023改訂第4版 南江堂 4. 成人看護学 成人看護技術「Web動画付」2022年改訂第3版 南江堂
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	杉野由起子：看護師として病院経験 森 雄太：看護師として病院経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス 急性期看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
2	周術期看護 手術前期から手術期の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	周術期看護 手術後期看護と退院支援	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
4	肺葉切除術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
5	人工股関節置換術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
6	大腸/胃切除術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
7	肝切除術/胆嚢摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
8	開頭脳腫瘍摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
9	乳房切除術/子宮摘出術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
10	冠動脈バイパス術を受ける患者とその家族の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
11	クリティカルケア看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
12	クリティカルケア看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
13	慢性閉塞性肺疾患の急性増悪状態にある対象の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
14	心不全の急性増悪状態にある対象の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	集中治療を受ける対象の回復を促進する 看護援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押 さえて自分なりの疑問点を持って講義に 臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明 らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

基本情報

科目名	成人看護学援助論（慢性期療養支援）
時間割コード	0126311301
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	未定
科目区分	専門科目 看護学科専門科目（専門分野）

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、齊藤 圭子、未定、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患や障害をもちながら生活する人とその家族への援助・支援を理解する 慢性疾患を有する人と家族のセルフマネジメントを促進する教育支援・方法について理解する 慢性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するための社会資源の活用や専門職の役割を理解する <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 主な治療方法と治療を受ける人の身体的・心理・社会的特徴を説明できる 慢性疾患の治療における具体的な援助方法を理解し説明することができる 疾患の急性増悪を予防するための療養支援と患者・家族教育を説明できる 慢性疾患群における疾病管理の現状と課題を理解し説明することができる
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 理解を深めるため、予習の際に意味がわからない内容や専門用語は、解剖生理学や成人看護学援助論（急性期療養支援）の知識とつなげ、復習または確認する（事前学修120分） 講義後は疑問点を明確にし、不明な点については講義内容を振り返り解決する（事後学修120分） この授業は3年次の成人看護学実習（慢性期療養支援）および4年次看護統合実習の先修科目に該当する
評価方法	<p>定期試験(100%)で評価する</p> <p>授業後のリアクションペーパーに対するフィードバックは、次の講義のなかで解説する</p>
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 系統看護学講座専門分野 成人看護学 2023年度巻【2】～【11】第15版 医学書院 成人看護学 慢性期看護 2023年改訂 第4版 南江堂 成人看護学成人看護技術「Web動画付」2022年改訂 第3版 南江堂 看護学専門分野教科書シリーズ 成人がん看護学 2023年初版第1刷 理工図書
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	杉野由起子：看護師として病院経験 齊藤圭子：看護師として病院経験

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス 慢性期看護概論	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
2	慢性疾患を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
3	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
4	呼吸器系の障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
5	循環器系の障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
6	ペースメーカーを装着している患者の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
7	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
8	インスリン療法・内分泌療法を受ける患者の援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
9	腎障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
10	消化器系の障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
11	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
12	がんになった人とその家族の理解と看護援助	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
13	神経系の障害を有する人とその家族の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	
14	運動機能障害を有する人とその家族の看護	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	慢性疾患の管理の現状と課題：疾病管理について	指定した教科書を熟読しキーワードを押さえて自分なりの疑問点を持って講義に臨むこと（120分） その日の講義でわからなかったことを明らかにし、自ら疑問を解決する（120分）	

基本情報

科目名	老年看護学援助論
時間割コード	0126311601
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	山本 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	高齢者に多くみられる症状や疾患の特徴を理解し、個別性を踏まえたアセスメントを行い健康課題を導き出すことができる。また、様々な健康状態あるいは多様な生活の場において、多職種と協働し、高齢者とその家族を支える看護を考えることができる。
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時には着席すること。授業開始後30分を過ぎたら遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とします。 ・毎回、小レポートを書いてもらいそれと携帯登録をもって出席とします。 ・事前学習：受講前に教科書を熟読し、疑問点は調べておくこと(2時間) ・事後学習：講義や演習を踏まえて、要点を自分でまとめ理解を深めること(2時間)
評価方法	定期試験100% フィードバックとして試験の回答のみを後日公開する
テキスト	堀内ふき、諏訪さゆり、山本恵子編集．ナーシング・グラフィカ老年看護学 高齢者看護の実践．メディカ出版．2022年
参考文献	適宜、講義の中で紹介する
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	山本恵子：看護師・保健師として病院勤務経験 生野繁子：看護師として病院勤務経験 北原崇靖：看護師として病院勤務経験

授業計画

授業計画
授業概要を熟読し、各講義に備えてください。15回の予定は以下の通りです。

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	高齢者の健康とその特徴(山本)		
2	老年看護における理論と倫理(山本)		
3	外来から入退院における高齢者の看護(山本)		
4	治療・リハビリテーションを受ける高齢者の看護(山本)		
5	病期別に見た高齢者の看護：急性期から慢性期(山本)		
6	病期別に見た高齢者の看護：終末期(北原)		
7	認知症の治療(山本)		
8	認知機能が低下した高齢者の看護(山本)		
9	高齢者の食事と排泄(生野)		
10	高齢者の活動と休息・性(生野)		
11	高齢者に特有な疾患・障害：運動器疾患(山本)		
12	高齢者に特有な疾患・障害：感染症・皮膚疾患(山本)		
13	高齢者に特有な疾患・障害：呼吸器疾患(北原)		
14	高齢者に特有な疾患・障害：その他(北原)		

授業計画

授業概要を熟読し、各講義に備えてください。15回の予定は以下の通りです。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
15	災害における高齢者支援（山本）		

基本情報

科目名	老年看護学概論
時間割コード	0126311501
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	月 2
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	生野 繁子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>ディプロマ・ポリシーとの関連 1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの中で高齢者をとらえ、高齢者の特徴とその健康生活について理解できる。 2. 保健医療福祉制度の変化と、高齢者を介護する家族の現状について理解できる。 3. 高齢者ケア提供の場と、ケア提供に係る専門職の役割について理解できる。 4. 高齢者の尊厳や人権を守り、高齢期のQOL向上の視点の重要性を理解できる。 5. 少子高齢・人口減少社会の我が国における老年看護の課題について理解できる。
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回講義時に老年看護学全体の構造を説明するので、学修計画を立てて置くこと。 ・ 具体的な高齢者をイメージして講義に臨むこと。 ・ 家族が住む自治体の介護保険等のパンフレットを入手し熟読(約90分)しておくこと。 ・ シラバス内容に関するテキスト部分を事前学習(約90分)し、授業に参加すること。 ・ 生野担当時に数回ミニテスト(評価には加味しない)を実施する。必ず復習(約90分)すること。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末定期試験(筆記)100%で評価する。
テキスト	「高齢者の健康と障害」老年看護学 第7版 堀内ふき編メディカ出版
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最新版 新体系看護学全書「老年看護学概論・老年保健」メヂカルフレンド社 2. 最新版 新体系看護学全書「老年看護技術」メヂカルフレンド社 3. 最新版 系統看護学講座専門19「老年看護学」医学書院 4. 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>生野 看護師として病院勤務経験</p> <p>山本 看護師・保健師として病院勤務経験</p> <p>北原 看護師として病院勤務経験</p>

授業計画

授業計画
<p>看護学科の老年看護学領域担当者3名が担当。7回半が講義、8回後半が単位修得試験。感染状況等で回の内容を入れ替えることがあります。</p> <p>ディプロマ・ポリシー1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4・5の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。</p> <p>事前事後学修として各回のキーワードに該当するテキスト部分を読んでおき、講義後は復習すること。(事前90分事後90分程度必要)</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

看護学科の老年看護学領域担当者3名が担当。7回半が講義、8回後半が単位修得試験。感染状況等で回の内容を入れ替えることがあります。

ディプロマ・ポリシー1の「生命・生活・人生」を共に考える能力育成のために、年齢を重ねて行くと心身にどのような変化がおきるのかを学び、2の保健・医療・福祉に関する専門知識を習得し課題解決の糸口を探求できる能力育成のために、現在の高齢社会の中で高齢者どのような状況に置かれているのか視野を広げていきます。3・4・5の能力育成のために看護師に必要な人権意識・他者の尊厳への配慮・意思決定支援の概要を学びます。

事前事後学修として各回のキーワードに該当するテキスト部分を読んでおき、講義後は復習すること。(事前90分事後90分程度必要)

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	ガイダンス・高齢者とは・高齢者の特徴と理解・高齢者の生活と家族(生野)	ライフサイクル・加齢・老化・老年期の発達課題・サクセスフルエイジング・ノーマライゼーション・スピリチュアリティ・家族機能の変化・介護者の健康・介護力評価・高齢者の家族への支援	左のキーワードを参考に事前にテキストを読んでおき、講義後は復習すること
2	高齢者にとっての健康・機能と評価・QOL(山本)	高齢者総合機能評価・ADL・IADL・障害と認知症の高齢者の日常生活自立度・要介護・要支援の認定と区分・リロケーション	同上
3	加齢に伴う身体機能の変化(生野)	高齢者の健康と疾病の特徴・恒常性(防衛力、予備力、適応力、回復力)の維持と各器官の機能の低下	同上
4	認知・心理・社会的変化と健康への影響・高齢者における性(生野)	知能や能力の変化・役割と社会活動の変化・余暇活動と生きがい・住宅環境・就労等の状況・高齢者の性機能の特徴	同上
5	老年看護の倫理・自己決定・虐待と身体拘束・成年後見制度(北原)	スティグマ・エイジズム・高齢者虐待・アドボカシー・身体拘束・高齢者の医療の確保に関する法律・成年後見制度・日常生活自立支援事業	同上
6	介護保険施設入所及びサービス利用高齢者の暮らしと看護(生野)	介護保険制度全般・地域包括ケアシステム・入所・地域密着型サービス・在宅サービスの種類と特徴・福祉介護用品の活用	同上
7	入院・長期入院・入所の高齢者の暮らしと看護・多職種連携チームアプローチ(山本)	医療施設の種類と特徴・入院・長期入院・入所高齢者のアセスメントと生活上の課題と援助・介護職員の専門性と役割の共有	同上
8	老年看護学概論のまとめ(生野)(45分)・評価テスト(生野・山本・北原)(45分)		1~7回の資料を整理し復習してまとめに望むこと。

基本情報

科目名	関係法規
時間割コード	0126300401
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	水 3
開講区分	第1学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	野崎 和義
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門基礎分野)

担当教員情報

教員名
野崎 和義

詳細情報

授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療行為を中核とする現行医事法制の中で、コメディカルの法的位置づけを理解する。 2. 医療専門職である看護師に課せられた社会的責務と業務上の責任を理解する。 3. 各種医療専門職との協力、福祉従事者との連携のために必要とされる法を理解する。 4. 今日の医療制度の仕組みとその問題点を理解する。
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：各回のテーマに即して教科書を読んでおくこと。 ・事後学習：講義内容について教科書および関連事項を整理すること。 ・講義の進行は、理解度に応じて変更することがある。その際には、あらかじめ通知する。
評価方法	定期試験(100%)の成績によって評価する。
テキスト	野崎和義著『コ・メディカルのための医事法学概論(第2版)』2020年、ミネルヴァ書房。 野崎和義監修『社会福祉六法』2023年、ミネルヴァ書房。
参考文献	適宜紹介する。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
<p>事前・事後学修について</p> <p>事前：あらかじめ講義レジュメを配布する。そこに記されたテキストの指定範囲を事前に熟読しておくこと(2時間)</p> <p>事後：ノートをしっかり整理する。講義や討論を踏まえて、改めて教科書を読む(2時間)。</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	市民の法と専門職の法 市民法の基礎、看護師の法的位置づけ		
2	医療職と法 守秘義務と個人情報の保護、三層の法構造		
3	医業の独占 医療行為、「業」による規制、医療行為の拡散		
4	治療行為と同意(1) 医療行為と治療行為、同意能力、乳幼児と医療ネグレクト		
5	治療行為と同意(2) 家族による同意、成年後見制度と治療同意権		
6	診療の補助と医師の指示 具体的指示と包括的指示、メディカルコントロール		
7	看護師と刑事責任(1) 終末期医療と家族		
8	看護師と刑事責任(2) チーム医療と信頼の原則、実習生による事故とその対応		
9	チーム医療と民事責任(1) 民事責任の構造、医療従事者の注意義務		
10	チーム医療と民事責任(2) 看護師の過失		

授業計画

事前・事後学修について

事前：あらかじめ講義レジュメを配布する。そこに記されたテキストの指定範囲を事前に熟読しておくこと（2時間）

事後：ノートをしっかり整理する。講義や討論を踏まえて、改めて教科書を読む（2時間）。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
11	身体拘束と看護事故 裁判例の分析、 看護と介護		
12	医療過誤と訴訟 訴訟の目的とその限 界、医療ADRの取り組み		
13	看護師と労働法 労働契約の特殊性、 院内暴力・セクハラ		
14	医療制度と法 医療制度改革、医療法 の改正		
15	コメディカルの業務と責任 医療者の 義務、医事法の構造と射程		

基本情報

科目名	統計学
時間割コード	0126130101
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	森 信之
科目区分	共通科目 科学的思考の基盤

担当教員情報

教員名
森 信之

詳細情報

授業の目的・到達目標	社会調査やアンケートなどで得られたデータは、そのままでは役に立たない。データを客観的、論理的に分析することが必要になってくる。本講義では、確率論の基礎知識を踏まえた上で、データを分析する手法や手順、得られた結果の評価方法等を、なるべく多くの事例に関する演習を通して実践的に理解し、得られたデータから適切な分析手法を選択し、データ分析ができるようになることを目標とする。
履修上の注意事項	テキストはなく、配布プリントを配布するだけなので、事前の予習、事後の復習が大切である。特に、出てきた専門用語は、何を意味しているのか、その内容をしっかりと把握しておくこと。わからないことは、わからないままで済ませずに、遠慮なく質問に来るようにしてもらいたい。
評価方法	筆記試験の結果のみで判断する。再試験は行なう。
テキスト	テキストは用いず、適宜、プリント資料を配布する。
参考文献	講義中に、適宜、紹介するが、図書館にも「統計学」で学内蔵書検索をすると、多くの蔵書が見つかる。実際に手に取ってみて、自分に合う参考図書を見つけてみるとよい。
実務経験のある教員による授業	無
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	質的データと度数分布表・ヒストグラム	事前：事前配布資料を読んで予習する（1時間） 事後：復習のための演習レポートを提出する（1時間）	
2	量的データと代表値，分散	事前：事前配布資料を読んで予習する（1時間） 事後：復習のための演習レポートを提出する（1時間）	
3	正規分布，t分布， χ^2 乗分布とその性質	事前：事前配布資料を読んで予習する（1時間） 事後：復習のための演習レポートを提出する（1時間）	
4	母平均・母分散・母比率の推定	事前：事前配布資料を読んで予習する（1時間） 事後：復習のための演習レポートを提出する（1時間）	
5	検定の考え方，第1種・第2種の過誤	事前：事前配布資料を読んで予習する（1時間） 事後：復習のための演習レポートを提出する（1時間）	
6	母平均の検定，対応のある2つの母平均の差の検定	事前：事前配布資料を読んで予習する（1時間） 事後：復習のための演習レポートを提出する（1時間）	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容 (担当)	事前・事後学修	備考
7	対応のない2つの母平均の差の検定	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
8	ノンパラメトリック検定(順位和検定)	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
9	ノンパラメトリック検定(符号検定)	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
10	ノンパラメトリック検定(符号付き順位和検定)	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
11	母比率の検定(対応のある場合, ない場合)	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
12	適合度の検定	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
13	独立性の検定, マクネマー検定	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
14	相関関係と相関係数	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	
15	回帰分析	事前：事前配布資料を読んで予習する(1時間) 事後：復習のための演習レポートを提出する(1時間)	

基本情報

科目名	地域・在宅看護学概論
時間割コード	0126310701
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	1
主担当教員	中川 武子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
坂口 里美、中川 武子、福本 久美子、田中 康子、巖 桂子

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【授業目的】 健康に障がいを抱える対象者の健康課題を明らかにしその解決に必要な基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の人々の暮らしを支える看護の概観を理解できる。 2) 地域の人々の暮らしを支える看護を歴史を通して理解できる。 3) 地域でくらす人々とそれを支える看護実践の場が理解できる。 4) 暮らしを支える看護の実践を理解できる。 5) 暮らしを支える看護に関わるシステムを理解できる。 6) チーム医療及び他職種との協働における看護職の役割を理解できる。
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義初日に授業展開日程表を配布するので、日程表に沿った学習を進めること。 2) 事前学習としてテキストの該当範囲を読み、不明な用語を調べておくこと(2時間)。 3) 事後学習として講義内容と配布資料をまとめ整理しておくこと(2時間)
評価方法	定期試験 50% レポート 50% フィードバックとして講義への質問などは適宜回答します。
テキスト	系統別看護学講座 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 医学書院 2023年版
参考文献	国民衛生の動向 2023/2024 一般財団法人厚生労働統計局 2023年度版
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>中川：保健師として保健センター勤務経験、看護師として病院勤務経験</p> <p>坂口：保健師として保健センター勤務経験、看護師として病院勤務経験</p> <p>田中：看護師として病院勤務経験</p> <p>巖：看護師として病院勤務経験</p>

授業計画

授業計画
該当するデータはありません

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	人々の暮らす人々の理解(中川)	<p>事前：該当部分のテキストを読んでおくこと(2時間)</p> <p>事後：講義資料を踏まえ、まとめること(2時間)</p>	オリエンテーション 第1章
2	暮らしの基盤としての地域の理解(中川)	<p>事前：該当部分のテキストを読んでおくこと(2時間)</p> <p>事後：講義資料を踏まえ、まとめること(2時間)</p>	第2章
3	地域社会の中にある暮らしを支える資源(坂口)	<p>事前：該当部分のテキストを読んでおくこと(2時間)</p> <p>事後：講義資料を踏まえ、まとめること(2時間)</p>	第2章

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	地域の人々を支える看護の理念と目的： ヘルスプロモーションとプライマリーヘルスケア（福本）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第3・4章
5	地域の人々のくらしを支える看護の歴史（坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第6章
6	地域の人々を支える看護の対象（田中）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第3章
7	くらしを支える看護の基本（中川）：看護職の活動の場	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
8	地域でくらす人々を支える看護実践の場：地域・在宅看護	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
9	地域でくらす人々を支える看護実践の場・行政機関（中川）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
10	地域でくらす人々を支える看護実践の場・行政機関（中川・特別講師）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第4・5章
11	地域でくらす人々を支える看護実践の場・在宅に関する機関（巖）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第5章
12	地域でくらす人々を支える看護実践の場・在宅に関する機関（特別講師・中川・坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第5章
13	地域・在宅看護にかかわる制度：介護保険制度・医療保険制度（坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第6章
14	地域・在宅看護にかかわる制度：地域保健にかかわる法制度他（坂口）：	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第6章
15	地域・在宅看護の総括（中川・坂口）	事前：該当部分のテキストを読んでおくこと（2時間） 事後：講義資料を踏まえ、まとめること（2時間）	第1～6章

基本情報

科目名	地域ケアシステム論
時間割コード	0126310801
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	水 1
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	田中 康子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
田中 康子、巖 桂子

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のなかで暮らす人々の健康と暮らしを支えるための地域・在宅看護の役割について理解する。 2. 地域・在宅看護の対象となる人々が暮らす地域について理解する。 3. 地域のなかで暮らす地域・在宅看護の対象を理解する。 4. 地域のなかで暮らす人々の暮らしの環境を整えるために必要な看護の知識・姿勢を理解する。 5. 地域・在宅看護の提供の場と多職種における連携について理解する。 6. 地域・在宅看護にかかわる社会保障制度について理解する。 <p>【個別到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のなかで暮らす人々の特徴を知り、人々の暮らしを支える看護の基盤となる考え方の視点を説明できる。 2. 地域・在宅看護の対象となる人々が暮らす地域の特徴を知り、地域社会の課題を説明できる。 3. 地域のなかで暮らす人々の特徴と家族の現状について説明できる。 4. 地域の人々の暮らしを支えるための環境を整える看護を知り、地域・在宅看護に求められる姿勢を説明できる。 5. 地域・在宅看護を実践する場と実践するにあたり多職種連携や協働の必要性について説明できる。 6. 地域で暮らす人々の生活を支える社会保障制度について説明できる。
履修上の注意事項	<p>【事前事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む(2時間)。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う(2時間)。 <p>【履修上の注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義の出席について、以下の1)から3)のすべてを実施することで出席とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 携帯電話等での登録：各回の講義で担当教員が口頭で伝えるキーワードの登録 2) 感想カードの提出：毎回の講義直後、指定された場所に提出する。提出する場所は教室内に限る。 3) 講義開始直後から終了するまでの時間内において、教室(授業の場所)内の座席に着席する。座席に着席しているかの確認を行う場合もある。 2. 原則、座席指定ではない。授業の状況(授業態度：私語がみられる他)にて、座席指定に変更する可能性がある。また、感染予防対策として座席指定の場合もある。 3. 授業方法として、グループワーク等で実施する可能性がある。その際には、講義中での口頭による説明やCAMPUS SQUARE 掲示で連絡を行う。 <p>【遅刻および欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻：授業開始時間から20分の間において、教室(授業の場所)に入室した場合。 ・欠席：授業開始時間20分以降において、教室(授業の場所)に入室した場合。また、授業時間内において教室(授業の場所)に入室しなかった場合。

詳細情報

評価方法	<p>【本科目における評価】 定期試験と小テストを合計(100%)した60%以上である。学生便覧の成績評価におけるA、B、Cのいずれかの評価で合格の判定とする。</p> <p>【評価の内訳について】 ・定期試験：60% 配点：担当教員から口頭もしくはCampusSquareで連絡を行う。 ・小テスト：40% 配点：担当教員から口頭もしくはCampusSquareで連絡を行う。</p> <p>【再試験について】 実施しない場合は、CampusSquareの定期試験関連で連絡をおこなう。</p> <p>【その他】 1. フィードバック：講義の感想カードの内容について、次回の講義もしくは講義を担当した教員の回において口頭で返答を行う。 2. 小テスト：講義7回のうちのいずれかの回で実施する予定である。担当教員から口頭もしくはCampusSquareで事前に連絡を行う。終了後に口頭等で解説を行う。</p>
テキスト	河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤，医学書院，2023。
参考文献	・テキストや講義資料に提示する文献 ・適宜提示する
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	田中 康子：看護師として病院勤務経験 巖 桂子：看護師として病院勤務経験 特別講師 松崎 とよ子：看護師として病院勤務経験および活動中

授業計画

授業計画	
【授業計画】計8回（講義：7回・定期試験：1回）	
【授業概要】	
<p>地域のなかで生活する人々の健康や生活にどのような課題をもつか、地域と人々の特徴を理解し、地域・在宅看護の目的を学ぶ。 また、地域のなかで生活する人々や家族（介護者）の現状、地域・在宅看護にかかわる法令・制度等の社会資源や地域の人々の生活の支援にかかわる医療や介護の政策から、地域・在宅看護の特性および役割について理解する。 地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の基本となるものを学習する。</p>	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	・地域における暮らしと人々の健康 ・地域・在宅看護の役割 ・人々が暮らす地域の特徴 (田中)	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	ガイダンス（予定）：講義の展開等の説明をおこなう。
2	地域・在宅看護の対象者と家族の現状 (田中)	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
3	地域の人々の暮らしを支える看護：人々の生活の環境を整える 地域・在宅看護に求められる姿勢（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	

授業計画

【授業計画】計8回（講義：7回・定期試験：1回）

【授業概要】

地域のなかで生活する人々の健康や生活にどのような課題をもつか、地域と人々の特徴を理解し、地域・在宅看護の目的を学ぶ。
 また、地域のなかで生活する人々や家族（介護者）の現状、地域・在宅看護にかかわる法令・制度等の社会資源や地域の人々の生活の支援にかかわる医療や介護の政策から、地域・在宅看護の特性および役割について理解する。
 地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の基本となるものを学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	地域の人々の暮らしを支える看護 ・暮らしにおけるリスク（田中） ・暮らしにおける災害対策（松崎）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
5	地域・在宅看護を提供する場と多職種連携・協働（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	特別講師（松崎）の講義 ：日程変更の可能性あり
6	地域の人々の暮らしを支える社会保障制度：介護保険制度・医療保険制度、他・医療提供体制（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
7	地域の人々の暮らしを支える社会保障制度：訪問看護の制度（巖）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
8	定期試験	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	第1回から第7回で用いたテキストや講義資料等で、本科目全体の振り返りをおこない試験に臨む。

基本情報

科目名	地域・在宅看護学援助論
時間割コード	0126310901
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	田中 康子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
田中 康子、巖 桂子

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における看護過程の展開(生活支援)と展開方法について理解する。 2. 地域のなかで暮らす人々のQOLを支える看護技術について理解する。 3. 地域のなかで暮らす人々のQOLを支える時期別(介入時期別)の看護について理解する。 4. 疾病や障害、加齢に伴う変化をもちながら地域で生活する人々と家族(介護者)の身体的・精神的・心理的・社会的特徴を理解する。 5. 地域の多様な人々の暮らしを支えるための地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。 6. 地域・在宅看護におけるマネジメントの視点を理解する。 <p>【個別到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における看護実践のために必要な看護過程の展開の基本的な視点や考え方を説明できる。 2. 地域で暮らす人々の生活の場において看護実践をおこなうにあたり必要な視点(心がけ)を説明できる。 3. 地域のなかで暮らす人々(対象者)と看護者との人間関係を形成するためのコミュニケーションの必要性について説明できる。 4. 地域のなかで暮らす人々の家族を支えるために必要な視点について説明できる。 5. 地域のなかで暮らす人々の安全な生活を支えるために必要な生活環境のなかにあるリスクとその予防について説明できる。 6. 地域のなかで暮らす療養者の生活を支えるために必要な生理的および安全のニーズに関する援助の方法について説明できる。 7. 地域のなかで暮らす人々の健康な時期から在宅療養の終了時期までにおける看護の目標や計画について説明できる。 8. 地域のなかで暮らす療養者の事例をとおして、身体的・精神的・心理的・社会的特徴を知り、健康状況、生活機能の状況に応じた個別性のある援助の方法について説明できる。 9. 地域の多様な人々の暮らしを支えるための地域における多職種、関連機関、地域資源との連携および協働の必要性について説明できる。 10. 地域のなかで暮らす人々のQOLの支援について、地域のなかで支援を必要とする場において切れ目のない看護援助について説明できる。
------------	--

詳細情報

履修上の注意事項	<p>【事前事後学習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目のシラバスを参照し学習に臨む。 2. 事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 3. 事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したりノートを整理したり、理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。 <p>【履修上の注意事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の講義の出席について、以下の1) から3) のすべてを実施することで出席とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 携帯電話等での登録：各回の講義で担当教員が口頭で伝えるキーワードの登録 2) 感想カードの提出：毎回の講義直後、指定された場所に提出する。提出する場所は教室内に限る。 3) 講義開始直後から終了するまでの時間内において、教室（授業の場所）内の座席に着席する。座席に着席しているかの確認を行う場合もある。 2. 原則、座席指定ではない。授業の状況（授業態度：私語がみられる他）にて、座席指定に変更する可能性がある。また、感染予防対策として座席指定の場合もある。 3. 授業方法として、グループワーク等で実施する可能性がある。その際には、講義中での口頭による説明やCampusSquare掲示で連絡を行う。 <p>【遅刻および欠席について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻：授業開始時間から20分の間において、教室（授業の場所）に入室した場合。 ・欠席：授業開始時間20分以降において、教室（授業の場所）に入室した場合。また、授業時間内において教室（授業の場所）に入室しなかった場合。
評価方法	<p>【本科目における評価】</p> <p>定期試験と小テストを合計(100%)した60%以上である。学生便覧の成績評価におけるA、B、Cのいずれかの評価で合格の判定とする。</p> <p>【評価の内訳について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：60% 配点：担当教員から口頭もしくはCampusSquareで連絡を行う。 ・小テスト：40% 配点：担当教員から口頭もしくはCampusSquareで連絡を行う。 <p>【再試験について】</p> <p>実施しない場合は、CampusSquareの定期試験関連で連絡をおこなう。</p> <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィードバック：講義の感想カードの内容について、次回の講義もしくは講義を担当した教員の回において口頭で返答を行う。 2. 小テスト：15回の講義うちのいずれかの回で実施する予定である。担当教員から口頭もしくはCampusSquareで事前に連絡を行う。終了後に口頭等で解説を行う。
テキスト	<p>河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤，医学書院，2023．</p> <p>河原 加代子ほか：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践，医学書院，2023．</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや講義資料に提示する文献 ・適宜提示する
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>田中 康子：看護師として病院勤務経験</p> <p>巖 桂子：看護師として病院勤務経験</p> <p>特別講師 松川 千恵美：看護師として訪問看護ステーション勤務経験および活動中</p>

授業計画

授業計画	
<p>【授業概要】 授業回数：16回 講義15回 定期試験：1回</p> <p>地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。</p> <p>地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。</p> <p>また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。</p> <p>地域の人々の暮らしの豊かさと自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。</p>	

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
-----	--------	---------	----

授業計画

【授業概要】授業回数：16回 講義15回 定期試験：1回

地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。

地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。

また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。

地域の人々の暮らしの豊かさと自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	・ガイダンス ・地域・在宅看護における看護過程の展開と方法 （田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	ガイダンス（予定）：講義の展開等の説明をおこなう。
2	地域の人々の暮らしを支える看護実践に必要な視点（心がけ）・コミュニケーション （田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
3	地域のなかで暮らす人々の家族を支える看護（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
4	地域のなかで暮らす人々の安全な生活を支える看（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
5	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：療養生活の環境調整（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
6	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：活動・休息（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	

授業計画

【授業概要】授業回数：16回 講義15回 定期試験：1回

地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。

地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。

また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。

地域の人々の暮らしの豊かさや自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
7	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：食生活・嚥下（厳）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
8	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護 ・排泄 ・清潔・衣生活 （田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
9	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：苦痛の緩和・安楽（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
10	地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護：呼吸・循環（厳）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
11	・地域のなかで暮らす人々の生活を支える看護 ・創傷管理 ・与薬 （田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	
12	地域・在宅看護における時期別（介入時期別）の看護：健康な時期～在宅療養終末期（田中）	・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。	

授業計画

【授業概要】授業回数：16回 講義15回 定期試験：1回

地域ケアシステム論で学習した地域と地域のなかで暮らす人々の健康や生活についてをとおして、人々を生活者として理解したうえで本科目を学習する。

地域のなかで暮らす人々の疾病や障害や加齢に伴う変化、問題解決型思考だけでなく目標志向型思考を主要とする介入時期別に応じた生活機能のアセスメントや人々の生活を豊かにする支援について理解し、地域における看護活動の基本的な知識や援助方法を学習する。

また、地域の多様な人々の暮らしを支えるための保健・医療・福祉・介護の専門職者（関連職種・関連機関）のみならず地域住民も含めた地域共生社会における多職種連携・協働を理解する。

地域の人々の暮らしの豊かさと自己実現、一人ひとりの自己決定と自律（自立）支援を理解し、地域・在宅看護の対象とする地域のなかで暮らす人々の「生きること」を支える看護の実践を学習する。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
13	地域・在宅看護における時期別（介入時期別）の看護：終末期〔終末期ケアの事例等〕（松川）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。 	特別講師（松川）の講義：日程変更の可能性あり
14	地域の多様な人々の暮らしを支える地域における多職種、関連機関、地域資源との連携・協働（田中）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。 	
15	地域・在宅看護におけるマネジメント（田中）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：講義の予定とするテキストの範囲を事前に熟読する。わからない、または明確に理解できていない言葉や意味等の事項について、調べて講義に臨む（2時間）。 ・事後学習：毎回の講義で関わったテキストおよび配布資料を読み直したり、ノートを整理したり理解を深めて説明できるような復習を行う（2時間）。 	

基本情報

科目名	母性看護学概論
時間割コード	0126312101
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	水 2
開講区分	第1学期
単位数	1.0
学年	2
主担当教員	牛之濱 久代
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名	
牛之濱 久代、大橋 知子、未定	

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>目的：本科目では、人間の健康を性と生殖に関する側面からとらえ、母性看護学の基盤となる諸概念について学び、母子と家族を取り巻く環境の変化や母性看護の変遷と現況、および動向を把握し、必要な支援について考察する。</p> <p>目標：母性看護の基盤となる諸概念について理解することができる。 母性看護の変遷と現況、および動向を概括し、家族を含めた母子を取り巻く環境を把握できる。 母子と家族に必要な支援について考察できる。</p>
履修上の注意事項	<p>1. 事前および事後学修について 講義初日に授業展開日程表を配布するので、事前に教科書を読み、その分野に関する内容を予習すること。また、授業資料内容を教科書や参考書と照らし合わせ復習すること。</p> <p>2. 遅刻の取扱いについて 30分以内の遅刻は3回で欠席1回とする。なお、30分以上の遅刻は欠席とする。</p> <p>3. 理解度を確認するため講義内で小テストを実施する。</p>
評価方法	<p>小テスト(2回)50%、期末試験50%</p> <p>フィードバックとして、小テストについては、全員が受験したことを確認した後、正答・解説を掲示するとともに希望者には個別に点数を開示します。</p> <p>期末試験については、試験終了後に正答・解説を掲示するとともに希望者には点数を開示します。</p>
テキスト	<p>森恵美他『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護[1]』第14版 医学書院、2021年</p> <p>森恵美他『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護[2]』第14版 医学書院、2021年</p> <p>『系統看護学講座 女性生殖器 成人看護学[9]』第15版 医学書院、2019年</p>
参考文献	<p>国民衛生の動向</p> <p>前原澄子編集『新看護観察のキーポイントシリーズ母性』中央法規、2011年</p> <p>堀内成子編集『パーフェクト臨床実習ガイド 母性看護第2版』照林社、2017年</p>
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>牛之濱久代：看護師、助産師として病院勤務経験</p> <p>大橋知子：看護師、助産師として病院勤務経験</p>

授業計画

授業計画	
<p>8回にわたり、以下の内容・担当で講義を行う。講義はテキストを中心に担当者が資料を作成して進める。配布資料は授業実施前までにキャンパススクエアに掲示するので各自、印刷または電子媒体で準備をする。</p> <p>授業は講義中心だが、テーマによってグループ討議やワークショップを取り入れることがある。</p> <p>各回の事前・事後学修については以下を参照のこと。</p> <p>出席確認のため、出席登録と合わせ、毎回、Formsを使って授業に関する意見・質問・感想など、アンケートに答える。</p> <p>試験は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト：第2回および第3回の授業内容について2回に分けて実施(各25点) ・期末試験：第1、4、5、6、7、8回の授業内容について実施(50点) 	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	1.母性看護の概念とその特質：母性看護の特殊性、母性看護学学習のねらい(牛之濱)	<p>事前：教科書で授業内容を予習しておく(1時間)</p> <p>事後：母性看護の各概念について定義をまとめておく(1時間)</p>	

授業計画

8回にわたり、以下の内容・担当で講義を行う。講義はテキストを中心に担当者が資料を作成して進める。配布資料は授業実施前までにキャンパススクエアに掲示するので各自、印刷または電子媒体で準備をする。

授業は講義中心だが、テーマによってグループ討議やワークショップを取り入れることがある。

各回の事前・事後学修については以下を参照のこと。

出席確認のため、出席登録と合わせ、毎回、Formsを使って授業に関する意見・質問・感想など、アンケートに答える。

試験は以下のとおりとする。

- ・小テスト：第2回および第3回の授業内容について2回に分けて実施（各25点）
- ・期末試験：第1、4、5、6、7、8回の授業内容について実施（50点）

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
2	2.人間の性と生殖：人間の性の発達と課題、特徴、性の決定・分化、生殖器の構造と機能（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：人間の性の特徴、性の決定や分化性周期、ホルモンの働きをまとめておく（1時間）	小テスト 対象範囲
3	3.社会と母性保健：母子保健統計の動向、母子保健行政・施策（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：母子保健統計指標と動向、母子保健施策についてまとめておく。（1時間）	小テスト 実施 小テスト 対象範囲
4	4.母性看護の沿革と現況：日本の母性看護の発達－近代以前近代以降、現代（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：母性看護の歴史的変遷と今後の展望についてまとめておく（1時間）	小テスト 実施
5	5.リプロダクティブヘルス・ライツ、家族計画、受胎調節（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：リプロダクティブヘルス・ライツ、家族計画、受胎調節についてまとめておく（1時間）	
6	6.出生前診断を受けるカップル、不妊症カップルの理解と看護ケア（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：出生前診断や不妊症治療における看護論理的課題についてまとめておく（1時間）	
7	7.女性・家族のライフサイクル：現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族発達と発達課題（牛之濱）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：時代によるライフサイクルの変化と支援についてまとめておく（1時間）	
8	8.ハイリスクな状況にある人々への看護：子ども虐待とデートDV（大橋）	事前：教科書で授業内容を予習しておく（1時間） 事後：子ども虐待、デートDVのリスクや予防、看護についてまとめておく（1時間）	

基本情報

科目名	母性看護学援助論
時間割コード	0126312201
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	大橋 知子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名	
牛之濱 久代、大橋 知子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業目的：周産期は女性のライフサイクルの中で最もダイナミックな身体的変化を起こす。さらに、女性の健康は胎児・新生児の発育や健康状態にも影響を及ぼす。本科目では、看護師として周産期における母性・胎児・新生児およびその家族に必要なケアの糸口を見出す能力を育成する。</p> <p>到達目標 女性の「思春期」「成熟期」「更年期」「老年期」各期における特徴と健康課題を理解することができる。 周産期の女性と胎児、新生児を中心とした家族の変化を記述できる。 周産期の女性と胎児、新生児の身体的、心理・社会的変化と生活への適応を促す援助と健康逸脱時の援助を理解することができる。 周産期の女性と胎児・新生児を中心とした家族全体の健康保持・増進および異常予防のために必要な援助を理解できる。</p>
履修上の注意事項	<p>講義初日に授業展開日程表を配布するので、教科書を読みその分野を予習すること(2時間) 授業資料内容について教科書や参考書を読み返し復習すること(60分)。 演習課題についてレポートを作成し演習に臨むこと(60分)。</p>
評価方法	<p>原則：試験90%、レポート10% フィードバックとして、適時コメントを行います。</p>
テキスト	<p>森恵美他編集・著『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2]』第14版、医学書院、2021年発行 森恵美他編集・著『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1]』第14版、医学書院、2021年発行 末岡 浩他編集・著『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9]』第14版、医学書院、2019年発行</p>
参考文献	医療情報科学研究所(編集)『病気がみえる 産科』第4版、メディックメディア、2018年
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	牛之濱 久代:看護師、助産師として病院勤務経験、 大橋 知子:看護師、助産師として病院勤務経験

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
1	母性看護の特徴と母性看護学に必要な看護技術:情報収取・アセスメント技術(大橋)	事前:教科書で授業内容を下調べしておく。(2時間) 事後:母性看護における看護過程の特徴についてまとめておく。(2時間)	
2	女性・家族のライフサイクル:現代女性のライフサイクルと生涯発達、家族の発達段階と発達課題(大橋)	事前:教科書で授業内容を下調べしておく。(2時間) 事後:時代によるライフサイクルと看護の変化についてまとめておく。(2時間)	
3	女性のライフステージ各期の特徴と保健(1)思春期・成熟期:月経異常、性感染症など(大橋)	事前:教科書で授業内容を下調べしておく。(2時間) 事後:思春期の特徴と健康課題についてまとめておく。(2時間)	

授業計画

該当するデータはありません

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
4	女性のライフステージ各期の特徴と保健（3）（更年期・老年期）：更年期障害、骨粗鬆症 大橋	事前：教科書で授業内容を下調べしておく。（2時間） 事後：成熟期の特徴と健康課題についてまとめておく。（2時間）	
5	妊娠期の看護：妊娠成立と妊娠に伴う母体や胎児の変化，妊娠期の心理・社会的特性（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：情報整理（母親）（2時間）	小テスト 実施内容：1回目～4回目（20点）
6	妊娠期の看護：妊婦と胎児の健康マネジメント（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：情報整理（新生児）、ワークブック1-3p（2時間）	
7	妊娠期の看護：妊婦の健康管理，妊婦の日常生活とセルフケア（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：情報整理（新生児）、ワークブック1-3p（2時間）	
8	妊娠期の看護：妊婦と家族の看護，親になるための準備教育・妊娠期の異常（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：アセスメント、ワークブック4-6p（2時間）	
9	分娩期の看護：分娩の三要素と正常分娩の臨床経過（大橋）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：アセスメント、ワークブック7-8p（2時間）	小テスト 実施内容：5回目～8回目（20点）
10	分娩期の看護：分娩時の看護，分娩異常、産婦の安楽及び家族に対する看護（大橋）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：アセスメント、ワークブック9-10p（2時間）	
11	産褥期の看護：退行性変化，進行性変化，心理的变化・母親適応	事前：教科書を読む。（2時間）事後：アセスメント、ワークブック11～13p、26、27p（2時間）	小テスト 実施内容：9回目～10回目（15点）
12	産褥期の看護：母子と家族に対する看護援助、母乳哺育支援、育児支援、産褥異常（牛之濱）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：関連図、ワークブック14、18～21p（2時間）	
13	新生児期の看護：新生児の生理的特徴と看護（大橋）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：看護計画、ワークブック22、23p（2時間）	小テスト 実施内容：11回目～12回目（15点）
14	新生児期の看護：新生児期の異常と看護（大橋）	事前：教科書を読む。（2時間）事後：看護計画、ワークブック16、17p（2時間）	
15	母性看護学まとめ	事前：本授業で学んだ資料やレポートを読む（2時間） 事後：学習の見直し（2時間）	

基本情報

科目名	基礎看護学実習
時間割コード	0126330101
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	1.0
学年	1
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))

担当教員情報

教員名
柴田 恵子、坂口 里美、古堅 裕章、古江 佳織、齋藤 圭子、田中 康子、未定、上妻 尚子、北原 崇靖、赤峰 隆元、巖 桂子

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>実習目的 看護の提供の場を理解し、多職種との連携のあり方を学び、看護職の専門性を認識する。</p> <p>実習目標 1.看護職者の専門性を認識する。 看護の提供の場について知る。 他職種との連携のあり方について知る。 2.基礎看護学実習 で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。</p>
履修上の注意事項	<p>1.必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。</p> <p>2.単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。</p> <p>3.学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員(担当教員および科目責任者)が協議をした上で実習を中止する場合がある。</p> <p>4.予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。事前・事後学習として実習記録等の学習時間に要する時間は各2時間である。</p>
評価方法	<p>実習内容(学習・実践・記録):60%,提出・健康管理・実習態度:40%</p> <p>フィードバックとしては、カンファレンス、実習中及び実習後に行動目標に沿って面談を行う。</p>
テキスト	その都度、紹介する。
参考文献	その都度、紹介する。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	上妻、古江、古堅、田中、赤峰、坂口、北原、巖、齋藤は病院、施設等での看護師勤務・保健師勤務経験、柴田は小中高校での養護教諭経験者である。

授業計画

授業計画
<p>診療場面、入院患者の日常生活を見学することで看護の必要性を理解する。そのため、学外実習として病院施設での経験と学内での学習を計画する。</p> <p>実習目標 1.看護職者の専門性を認識する。 1)看護の提供の場について知る。2)患者情報の収集と分析の実際から看護アセスメントを知る。3)他職種との連携のあり方について知る。 2.看護ケアの必要性を理解する。 1)コミュニケーションを通して患者を理解する。2)日常生活の援助を見学・実施することで看護ケアの必要性を理解する。 3.基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。</p>

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	基礎看護学実習
時間割コード	0126330201
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第2学期
曜限	他
開講区分	第2学期
単位数	2.0
学年	2
主担当教員	柴田 恵子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野(実習))

担当教員情報

教員名	
柴田 恵子、坂口 里美、古堅 裕章、古江 佳織、齋藤 圭子、田中 康子、未定、上妻 尚子、北原 崇靖、赤峰 隆元、巖 桂子	

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>実習目的 コミュニケーションを通して日常生活援助を中心とした看護実践を経験する。看護アセスメントに基づく看護ケア実践の必要性を理解し看護過程の展開について確認し、今後の課題を見出す。</p> <p>実習目標 1.看護ケアの必要性を理解する。 コミュニケーションを通して患者を理解する。 日常生活の援助を実践することで看護ケアの必要性を理解する。 看護ケア実践におけるアセスメントの必要性を理解する。 2.基礎看護学実習で学んだことを振り返り、自己の課題を明らかにする。</p>
履修上の注意事項	<p>1.必ず出席すること。実習中の欠席・遅刻は原則として認められない。 2.単位取得ができない場合は、翌年度に履修することとなる。 3.学生が誓約した内容を遵守しなかった場合、複数の教員(担当教員および科目責任者)が協議をした上で実習を中止する場合がある。 4.予習、復習の具体的内容はオリエンテーション時に指示する。事前・事後学習として実習記録等の学習時間に要する時間は各2時間である。</p>
評価方法	<p>実習内容(学習・実践・記録):60%、提出・健康管理・実習態度:40% フィードバックとしては、カンファレンス、実習中および実習後に行動目標に沿って面談を行う。</p>
テキスト	その都度、紹介する。
参考文献	その都度、紹介する。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	上妻、古江、古堅、田中、赤峰、坂口、北原、巖、齋藤は病院、施設等での看護師勤務・保健師勤務経験、柴田は小中高校での養護教諭経験者である。

授業計画

授業計画	
該当するデータはありません	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	小児看護学実習
時間割コード	0125301501
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	松岡 聖美
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
松岡 聖美、二宮 球美、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>小児看護学実習は、・によって構成される。</p> <p>【小児看護学実習】</p> <p>目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの人権と尊厳を尊重する態度を養う。 2. 子どもの成長発達過程を理解し、成長発達を促進する支援の必要性を理解する。 <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと関係性を構築し、その子どもの成長発達過程について説明できる。 2. 集団生活をするこももの感染管理、安全管理について説明できる。 3. 看護専門職としての視点で成長発達段階に応じた生活援助について説明できる。 4. 子どもの暮らす多様な場の特徴・役割と、子育て支援について考察できる。 5. 日々の課題を明確にし、主体的な学習能力を身につける。 <p>【小児看護学実習】</p> <p>目的</p> <p>健康課題をもつ子どもとその家族を理解し、子どもの人権を尊重した看護、子どもとその家族中心の看護(patient and family-centered care)を提供する基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の場における子どもの人権を尊重した看護について理解し、その一部を実践できる。 2. 子どもとその家族を理解し、子どもと家族中心の看護(patient and family-centered care)の実際を理解し、その一部を実践できる。 3. 子どもを取り巻く、家庭、地域、保健、医療、福祉、教育の機能と連携を理解し、小児看護の役割を考察できる。 4. 主体的に実習に臨み、自己の課題を明らかにできる。
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項を熟読し、事前学習(小児の特性等小児看護学の知識および基礎医学知識・小児看護技術および基礎看護技術など、10時間)を行い、実習で子どもと家族へ看護展開できる状態で実習に臨むこと。更に、実習中においては、担当教員よりの加筆修正のための事後学習が必要となる。毎日3~5時間程度×10日 2. 必ず出席すること、実習中の欠席・遅刻・早退、それに準ずるものは原則として認めない 3. 学生が誓約した内容を遵守すること(大学との契約、臨地との契約など) 4. 単位修得ができない場合は、翌年度に履修することになる。 5. 事後学習でライフステージにおける小児看護学と実践の統合をすること。 *学習の進捗状況に応じたフィードバックを行う。必要に応じて面談実施。
評価方法	<p>単位取得資格条件：2/3以上の出席</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学実習 と小児看護学実習 を合わせて、小児看護学実習の評価とする 2. 実践および実習態度：50%(準備性、主体性、実践内容、安全・安楽への取り組みなど) 3. 実習記録とカンファレンス：50%(根拠、具体性、個別性、修正の度合いなど) <p>実習要項に示した評価表を基礎資料とし、上記評価方法により指導者および教員による評価を総合して評価判定する。つまり、実習に対する準備段階から評価対象となることに留意すること。 実習中、適宜フィードバックを行い、実習終了時は必要に応じ面接を行う</p>
テキスト	その他看護に関連した共通科目・専門科目で用いたテキスト全て Campus square資料も含む
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「看護診断ハンドブック 第11版」リンダ J・カルベニート=モイエ著 2018 医学書院 ・『小児看護』2000.8 - クリニカル・サインのチェックポイントー .へるす出版 ・medical science関連教科書 ・小児看護学の教科書・参考書・授業中使用の印刷教材・資料、Campus square資料 など全て
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>松岡聖美 看護師として病院勤務経験を有する</p> <p>二宮球美 看護師として病院勤務経験を有する</p>

授業計画

小児看護学実習は、小児看護学実習 と で組み立てられている。
 小児看護学実習 は、保育所・保育園・こども園（玉田市・熊本市・玉東町）において臨地3日間、学内3日間の実習を行う。この間に、健康な子どもの成長発達段階の理解を深めて子どもとの関係性構築ができるよう、主体的に取り組むこと。
 小児看護学実習 は、病院・施設において臨地3日間、学内2日間の実習を行う。小児看護学実習 での学びを活用して、病気を持つ子どもとその家族へ看護を提供することになる。
 以上のように、 と では実習内容が異なるため、実習記録で求められることも異なる。様式内の注意事項をよく読み、記載すること。
 また、この科目は実習科目であるため、「臨地で体験・経験した具体的事象」と「既習科目で身につけた抽象的概念」とを結びつけることに、学びの本質がある。経験する事象が既習科目のどの部分に相当するのか、常に考えながら実習を行うこと。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
1	0日目 保育園等臨地 オリエンテーションと見学	実習要項及びオリエンテーション時に指示	
2	1・2日目 学内 ・オリエンテーション ・感染防止の介入計画 ・事故防止の介入計画	個と集団における感染防止の介入方法の立案、risk assessmentを行い介入方法を立案する	
3	3・4日目 保育園等臨地 遊びやコミュニケーション、生活の援助	実習計画、および実習記録作成	
4	5日目 学内 ・カンファレンス ・小児看護学実習 の自己評価	臨地での学習内容を基に、他施設間でのカンファレンス 目的目標についての評価	
5	6日目 学内 病院・施設オリエンテーション	配布済みのオリエンテーションの熟読 臨地までの移動経路の確認	
6	7～9日目 臨地 実習受け持ち患児決定、情報収、問題抽出、計画立案、実施など	実習計画、およびアセスメント・実習記録作成	
7	10日目 学内 実習のまとめ 追加修正、自己評価など	目的目標についての評価等	
8			

基本情報

科目名	成人看護学実習
時間割コード	0125301901
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	3.0
学年	3
主担当教員	杉野 由起子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、齊藤 圭子、未定、森 雄太、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>目的：成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し行動できる基礎能力を養う。</p> <p>到達目標：周手術期を通して健康状態が急激に変化する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができるようになる。</p>
履修上の注意事項	<p>実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。</p> <p>実習病棟の特色を知り、疾患・検査・治療・看護について事前学習を行ったうえで実習に臨む(90分以上)。</p> <p>実習後は看護実践の振り返りを行い、指導を受けた内容について意味づけを行う。自己の課題を明確にし、学習を深める(90分)。</p> <p>体調管理に努め、感染予防対策を実施する。</p>
評価方法	<p>評価は、実習評価表に基づき、「受け持ち患者の看護過程の展開と実習記録 70%、倫理的配慮・チームの一員としての行動 30%」とし、60点以上を合格とする。</p> <p>自己評価をもとにフィードバックとして、必要に応じて面接を行う。</p>
テキスト	<p>系統看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院. 系統看護学講座別巻1 臨床外科看護総論 医学書院の教科書および講義資料。</p>
参考文献	<p>看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA. 周手術期看護論 NOUVELLE HIROKAWA. 周手術期看護学 習ワークブック 加フレンド社. 病気がみえる MEDIC MEDIA. 看護師・看護学生のためのビューブック MEDIC MEDIA.</p>
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>杉野由起子：看護師として病院勤務経験</p> <p>森 雄太：看護師として病院勤務経験</p> <p>齊藤 圭子：看護師として病院勤務経験</p>

授業計画

授業計画

< 学習段階に応じた目標 >

1. 患者の病態・治療の理解：病態、検査、治療、経過、発達課題について患者状態を把握し、患者の病態、治療、手術後に予測される問題について理解できる。
2. 情報収集・看護問題抽出：患者情報を系統的に収集し手術が患者の心身にどのような影響を及ぼすかを予測して健康問題を明確化し、看護計画を立案することができる。最善の状態です術が受けられるように準備を整えることができる。
3. 看護計画立案：手術後の危機状態にある患者に対して、生命の維持、安全・安楽の確保、精神的支援のための看護を計画立案できる。
4. 看護の実践：回復期における患者の状態を理解し、早期離床、セルフケアに必要な看護を実践できる。退院後の生活を予測して残存機能を最大限に活用した自立への援助と家族を含めた指導を行うことができる。
5. 評価：周手術期の各段階において、患者が治療や健康の回復に向けて主体的に取り組めるような看護過程が展開できたか評価できる。
6. 倫理的配慮と医療チームの一員としてのと行動：看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員としての自己の役割を自覚した行動がとれる。

< 臨地実習計画 >

- | | |
|------------|---|
| 1週目の主な学習内容 | 情報収集・アセスメント
看護問題・計画の明確化、看護実践 |
| 2週目の主な学習内容 | 看護実践 看護計画の修正・追加 評価 |
| 3週目の主な学習内容 | 実習のまとめ 記録整理
実習で経験した看護の事象をテーマに文献学習
文献学習の内容を担当患者のケアに活かし考察する |

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	成人看護学実習
時間割コード	0125302001
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	3.0
学年	3
主担当教員	杉野 由起子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
杉野 由起子、齊藤 圭子、未定、森 雄太、西森 直美

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>目的：成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し、健康の段階に応じた最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。看護過程の展開を通して根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力と、人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し看護者として倫理的に判断し、行動できる基礎能力を養う。</p> <p>到達目標：慢性の疾患を有する患者とその家族のもつ健康問題を総合的に理解し、受け持ち患者と家族が主体的に病気を管理し、生活の再調整ができるような看護過程が展開できる。</p>
履修上の注意事項	<p>実習直前のグループ別オリエンテーションに必ず参加する。</p> <p>実習病棟の特色を知り、疾患・検査・治療・看護について事前学習を行ったうえで実習に臨む(90分以上)。</p> <p>実習後は看護実践の振り返りを行い、指導を受けた内容について意味づけを行う。自己の課題を明確にし、学習を深める(90分)。</p> <p>体調管理に努め、感染予防対策を実施する。</p>
評価方法	<p>評価は、実習評価表に基づき、「受け持ち患者の看護過程の展開と実習記録 70%、倫理的配慮・チームの一員としての行動 30%」とし、60点以上を合格とする。</p> <p>自己評価をもとにフィードバックとして、必要に応じて面接を行う。</p>
テキスト	<p>系統別看護学講座 成人看護学【2】～【14】医学書院、糖尿病食品交換表 第7版 の教科書及び講義資料。</p>
参考文献	<p>看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA、看護師・看護学生のためのビューブックMEDIC MEDIA、病気がみえるMEDICMEDIA、慢性期看護論 NOUVELLE HIROKAWA、患者教育のポイント 医学書院、がん看護 医学書院</p>
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>杉野由起子：看護師として病院勤務経験</p> <p>森 雄太：看護師として病院勤務経験</p> <p>齊藤 圭子：看護師として病院勤務経験</p>

授業計画

授業計画

< 学習段階に応じた目標 >

1. 患者の病態・治療の理解：慢性の疾患は主に生活習慣との関係から徐々に健康を障害していく。生活習慣は環境(自然・社会・文化)の影響を強く受けている。慢性の疾患を有する患者の病態を環境との相互作用の観点から理解できる。
2. 情報収集・看護問題抽出：患者情報を系統的に収集し、慢性の疾患を有する患者の健康障害の程度やセルフケア能力をアセスメントし、看護問題を明確化できる。
3. 看護計画立案：患者と家族の強み(主体的に病気を管理できるようなポジティブな面)を生かした看護計画を立案できる。
4. 看護の実践：患者の安全と治療的環境を維持し、立案した計画に基づいて、家族にも配慮しながら看護を実践できる。退院後の生活を予測して在宅療養に必要なリハビリテーションを理解できる。また社会生活に適応するために患者が主体的に自己管理できるよう家族を含めた援助を行うことができる。
5. 評価：慢性の疾患を有する患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか評価できる。
6. 倫理的配慮と医療チームの一員としての行動：看護者としての倫理的配慮ができ、医療チームの一員として自己の役割を自覚した行動がとれる。

< 臨地実習計画 >

1週目の主な学習内容	情報収集・アセスメント 看護問題・計画の明確化、看護実践
2週目の主な学習内容	看護実践 看護計画の修正・追加 評価
3週目の主な学習内容	実習のまとめ 記録整理 実習で経験した看護の事象をテーマに文献学習 文献学習の内容を担当患者のケアに活かし考察する

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	老年看護学実習
時間割コード	0125302301
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	北原 崇靖
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
生野 繁子、山本 恵子、北原 崇靖

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>実習目的 介護老人保健施設における医療・機能訓練・看護が必要な高齢者への理解を深め、健康課題に対するケアのあり方を学ぶ。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2. 高齢者が受けているケアサービスの目的が理解できる。 3. 受け持ち利用者の健康障害及び生活機能をアセスメントし、健康課題があげられる。 4. 介護保険制度を理解し、利用者及び家族に応じた社会復帰への援助を学ぶ。 5. 高齢者へのケアサービスを理解し、実践することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護職の役割を理解し、実践することができる。 2) 介護職の役割を理解し、実践することができる。 3) 施設ケアにおける環境面での配慮に気づき、行動ができる。 4) 高齢者ケアにおける連携について理解することができる。 6. 高齢者の尊厳を守ることができ、意思決定支援のあり方を学ぶ。
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要項を熟読し、準備段階から主体的かつ積極的に学ぶこと。 2. 実習要項に記載している事前学習を十分に実施しておくこと。 3. 健康には特段の注意をして、実習に臨むこと。 4. 臨地において当日の実習計画がないものは実習できない。 5. 実習終了後には、復習として老年看護学領域の国家試験過去問題を解いてみる。 6. 今まで学修したテキストなどを熟読しておくこと。
評価方法	実習評価表に基づき、コミュニケーション20%、高齢者アセスメント35%、ケアサービス25%、職業倫理20%の割合で評価する。学生の自己評価についても面談で確認する。
テキスト	履修上の注意事項以外に必要な場合は、必要に応じて実習中に適宜指示します。
参考文献	必要に応じて実習中に適宜指示します。
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	<p>生野繁子：看護師として病院勤務経験</p> <p>北原崇靖：看護師として病院勤務経験</p> <p>山本恵子：看護師、保健師として病院勤務経験</p>

授業計画

授業計画	
臨地実習2週間を設定している（詳細は実習要項参照）	
1週目の月	学内オリエンテーション
1週目の火～金	受け持ち利用者の情報収集およびアセスメントとケア 施設特性の理解など
2週目	受け持ち利用者の看護計画実施、他施設での学びの共有
*COVID-19感染によっては、臨地での実習ができない場合があります。 その際は、随時、キャンパススクエアにて掲示します。	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	精神看護学実習
時間割コード	0125302701
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	上田 智之
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名	
緒方 浩志、上田 智之	

詳細情報

授業の目的・到達目標	精神障害者とのかかわりを通して、対象者に生じている生活上の困難(生きにくさ)に対する理解を深める。また、セルフケア理論およびストレス理論に基づいたアセスメントによる対象者のセルフマネジメント能力を高める支援方法を理解する。さらに、治療的コミュニケーションをはじめとした精神看護実践能力を身につけることを目的とする。
履修上の注意事項	1.実習要項に沿って学習し、レポートを作成し、実習初日に提出する。 2.精神保健福祉に関する関連法規について事前に学習する。 3.事前に行われるオリエンテーションを必ず受けること。 4.自己の心身の健康管理に努め、実習を休まないように留意する。また、患者の個人情報に関しては看護学生として良識ある行動をとること。 5.実習内容に応じて事前事後学習(各120分)を行い実習に参加する
評価方法	実習時間の2/3以上の出席がない場合は評価対象とならない。 実習評価表に基づいて総合的に評価する。 フィードバックとして、レポートは実習内で解説する。
テキスト	精神看護学、の講義で使用したもの。
参考文献	1.精神看護学、で使用した教科書 2.岡田佳詠ほか.認知行動理論に基づく精神看護過程,中央法規,2016. 3.萱間真美.ストレスモデル実践活用術,医学書院,2016.
実務経験のある教員による授業	有
実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	上田智之:看護師として精神科病院勤務経験 緒方浩志:看護師として精神科病院勤務経験

授業計画

授業計画	
<p>実習期間:2週間</p> <p>実習施設:精神科病院および地域精神関連施設</p> <p>実習配置:各グループを人数に応じて3グループまたは4グループに分け、実習を実施する。 学内日は別途指示した日とする。</p> <p>実習内容:受け持ち患者を1名担当し、看護過程の展開を通して対象理解を深める。 アセスメントおよびケアを焦点化し、看護計画の立案をする。 プロセスレコードを作成し、自己および他者の振り返りを通して自己理解を深める。 地域で生活する対象者の現状と必要な社会資源について理解を深める。 地域における対象者の看護についてリカバリーおよびストレスの視点から理解を深める。</p> <p>詳細は精神看護学実習要項を参照</p>	

No.	内容(担当)	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			

基本情報

科目名	母性看護学実習
時間割コード	0125303001
開講所属	看護福祉学部看護学科
ターム・学期	2023年度 第1学期
曜限	他
開講区分	通年
単位数	2.0
学年	3
主担当教員	大橋 知子
科目区分	専門科目 看護学科専門科目(専門分野)

担当教員情報

教員名
牛之濱 久代、大橋 知子、未定

詳細情報

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的：母性看護学で学んだ知識、技術を統合し、周産期における母子と家族に対し、身体的・心理的・社会的特性を理解し、個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性および子ども・パートナーの生涯を通じた健康支援の必要性と看護について考察する。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期の母子と家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、各期の適応の過程を明らかにすることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理を述べることができる。 2) 対象者の身体的・心理的・社会的特性を記述できる。 2. 周産期の母子とその家族のニーズを明らかにし、安全・安楽を考慮したケアを見学もしくは実践し、評価できる。 3. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命の尊厳や対象者の尊重について認識を深め、倫理的配慮を持った態度と行動がとれる。 2) 周産期の母子とその家族を取り巻く社会システムおよび地域社会におけるサポート資源と妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について考察できる。 3) 母子保健医療チームメンバーとして適切な人間関係を作り、報告・連絡・相談ができる。 4) グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し、協力することができる。 5) 看護学生として基本的な行動がとれる(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど)。 4. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の行動や気持ちを振り返り、記録やカンファレンスなどで表現できる。 2) 今後の学習課題について述べるができる。
履修上の注意事項	<p>事前学習課題として、ワークブック(一人の妊婦の妊娠期から産褥期までの経過を追った看護の問題集)、実習で実施する母性看護術(妊産褥婦及び新生児の健康アセスメント、沐浴・清拭、妊婦健診、NSTなど)についても事前に十分演習を行い、手順書を作成の上、実習に備えてください。(ワークブックの見直しなどに、6時間を想定しています)</p> <p>事後学修として、看護師国家試験問題周産期 事例問題に取り組むこと(2時間を想定しています)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目的・目標の達成度(役割理解、看護実践・記録、課題の明確化)80% 2. 実習態度(予習・復習、主体性・積極性、カンファレンス参加状況、記録物の内容及び提出状況)20%実習内容に対するフィードバックは、カンファレンス、評価面接時に行います
テキスト	<p>森恵美他編集・著『系統看護学講座 母性看護各論 母性看護[2]』第14版、医学書院、2021年発行</p> <p>森恵美他編集・著『系統看護学 母性看護概論 母性看護学[1]』第14版、医学書院、2021年発行</p> <p>末岡 浩他編集・著『系統看護学 女性生殖器 成人看護学[9]』第14版、医学書院、2019年発行</p>
参考文献	<p>平澤美恵子・村上睦子(監修)『写真でわかる母性看護技術 アトバンス』インターメディカ出版、2020年発行</p> <p>石村 由利子(編集)『根拠と事故防止からみた母性看護技術』第3版、医学書院、2020年発行</p> <p>医療情報科学研究所(編集)『病気がみえる 産科』第4版、メディックメディア、2018年</p> <p>堀内 成子(編集)『パリエット臨床実習が10 母性看護第2版』照林社、2017年</p> <p>佐瀬 正勝、石村 由利子(編集)『ウエルネスからみた 母性看護過程 +病態関連図第4版』医学書院、2022年</p>
実務経験のある教員による授業	有

詳細情報

実務経験のある教員による授業 教員名及び実務内容	牛之濱 久代：看護師、助産師として病院勤務経験 大橋 知子：看護師、助産師として病院勤務経験
-----------------------------	---

授業計画

授業計画
1) 実習期間および実習時間 期間：2023年7 月初旬～2024 年1 月中旬 時間：9：00～15：30（実習施設により異なる） 2) 実習施設：地域子育て支援センター（1週間）、周産期の対象者を受け持つことが可能な病棟（1週間） 3) 学内日と臨地実習：子育て支援センター：金曜日、 臨地：月曜日（但し、祝日がある場合はこの限りではない） 4) 実習方法 (1) 事前学習：母性看護学実習ワークブック、看護過程事例の加筆、修正を行い母性看護に必要な知識を復習しておく。 母性看護技術について自己練習しておく。 (2) 事後学修：毎日、日々の記録実施評価を記載する。（毎日2時間）看護師国家試験母性事例設定の問題に取り組む。（最終日2時間） 5) 実習内容 (1) 病院実習の概要： 病棟の特性や対象者の特性を理解し、同意の得られた対象者に行われる援助を見学・一部実施を行う。 最終日カンファレンスで実習のまとめを行い、自己の学習課題を明確にする。 (2) 地域子育て支援事業所の概要： 施設を利用している両親および子どもに行われているサポートをスタッフまたはボランティアスタッフとともに見学または実践する。 機会があれば事業所で行われている教室（両親学級、ベビーマッサージ教室等）を見学する。 最終日カンファレンスで実習のまとめを行い、自己の学習課題を明確にする。

No.	内容（担当）	事前・事後学修	備考
該当するデータはありません			